

373

397

埭名勝案内

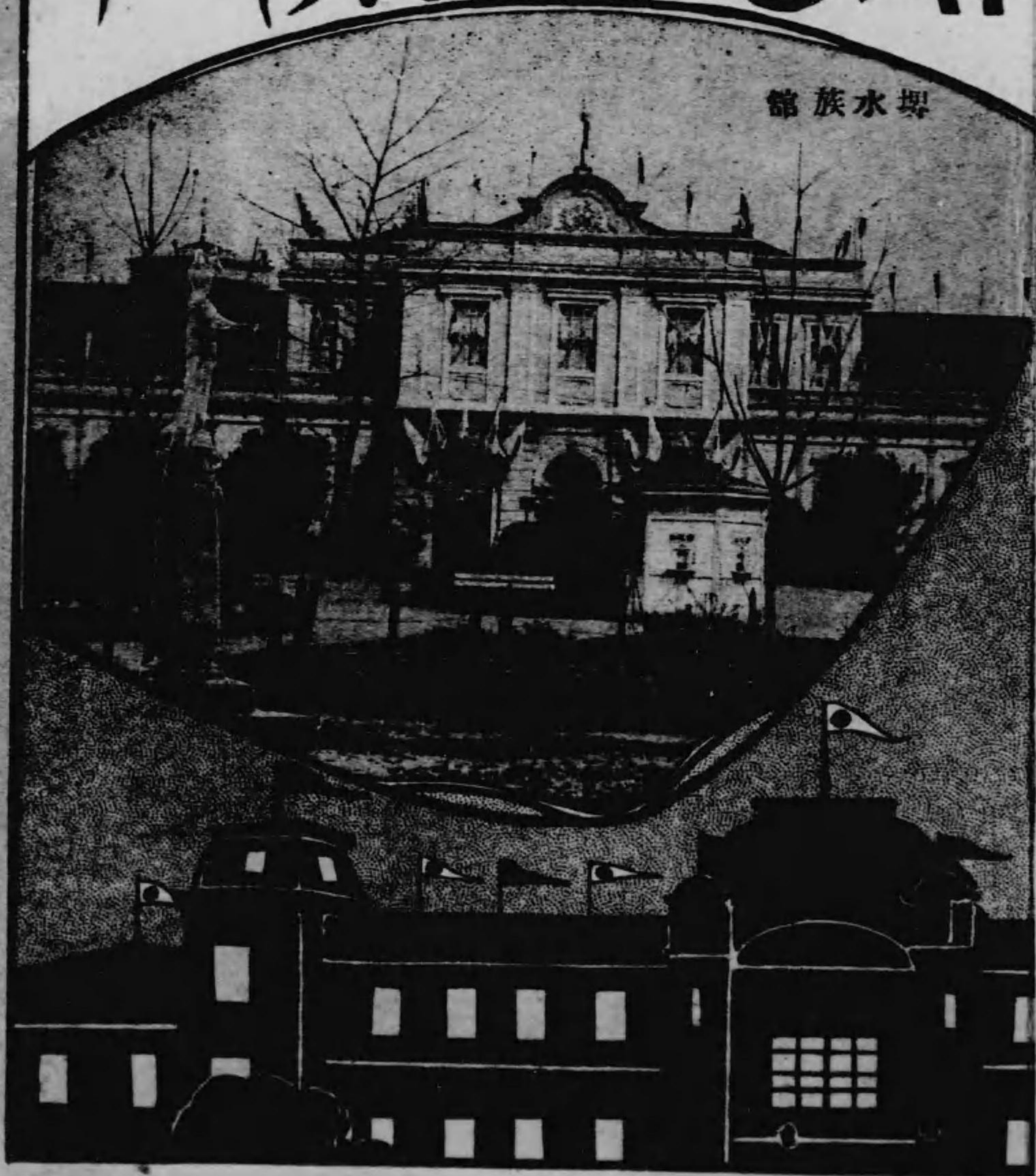
9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10¹⁹m 1 2 3 4 5

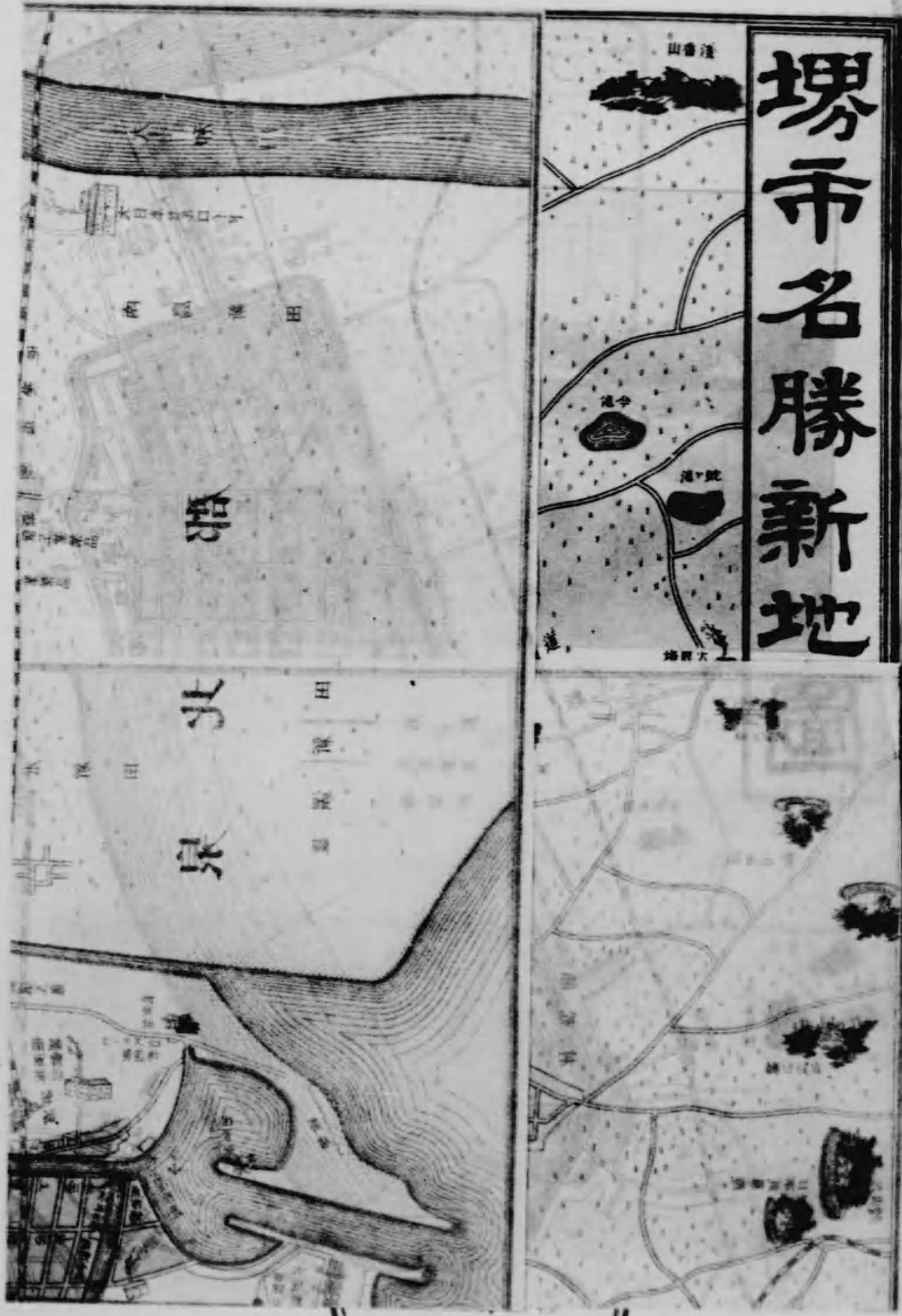
始



内案勝名塊

錦族水堤





旭市名勝新地

酒

火
泉

内交

醇良清酒

宮内省御用酒



各國大博覽會金銀賞牌

大阪府堺市熊野町
大塚合名會社
電話 四六〇〇番
九二〇番

大阪府堺市
全 堺醸造部五工場
電話一九番

攝津灘魚崎
全 灘醸造部九工場
電話御影三一番

大阪府堺市甲斐町
全 釀造試驗所

大阪市東區橫堀一丁目
全 大阪支店
電話本局六六一番

東京京橋區越前堀
全 東京支店
電話京橋二八九六番

北海道小樽港町
全 小樽支店
電話三二〇番

朝鮮京城明治町
全 京城支店
電話四〇一〇番

清國大連吉野町
全 大連支店
電話四〇四番

朝鮮釜山南濱町
全 釜山出張店
電話一三二番

全平壤大和町
全 平壤出張店
電話四八番

清國安東縣新市街
全 安東縣出張所
電話二一〇番

長崎市櫻津町
全 長崎出張店
電話四二八番

良清酒



各國大博覽會金銀賞牌

攝津 灘魚崎
全 灘釀造部九工場
電話御影三一番

大阪府堺市甲斐町
全 釀造試驗所

大阪市東區橋堀一丁目
全 大阪支店
電話本局六六一番

東京京橋區越前堀
全 東京支店
電話京橋二八九六番

朝鮮釜山南濱町
全 釜山出張店
電話一三一番

全平壤大和町
全 平壤出張店
電話四八番

清國安東縣新市街
全 安東縣出張所
電話二一〇番

長崎市榎津町
全 長崎出張店
電話四二八番

堺市名勝新地圖



北 泉 郡

田 新 濱 區



國大博覽會金銀賞牌

攝津灘魚崎
全 灘醸造部九工場
電話御影三一番

大阪府堺市甲斐町
全 醸造試驗所

大阪市東區橫堀二丁目
全 大阪支店
電話本局六六一番

東京京橋區越前堀
全 東京支店
電話京橋二八九六番

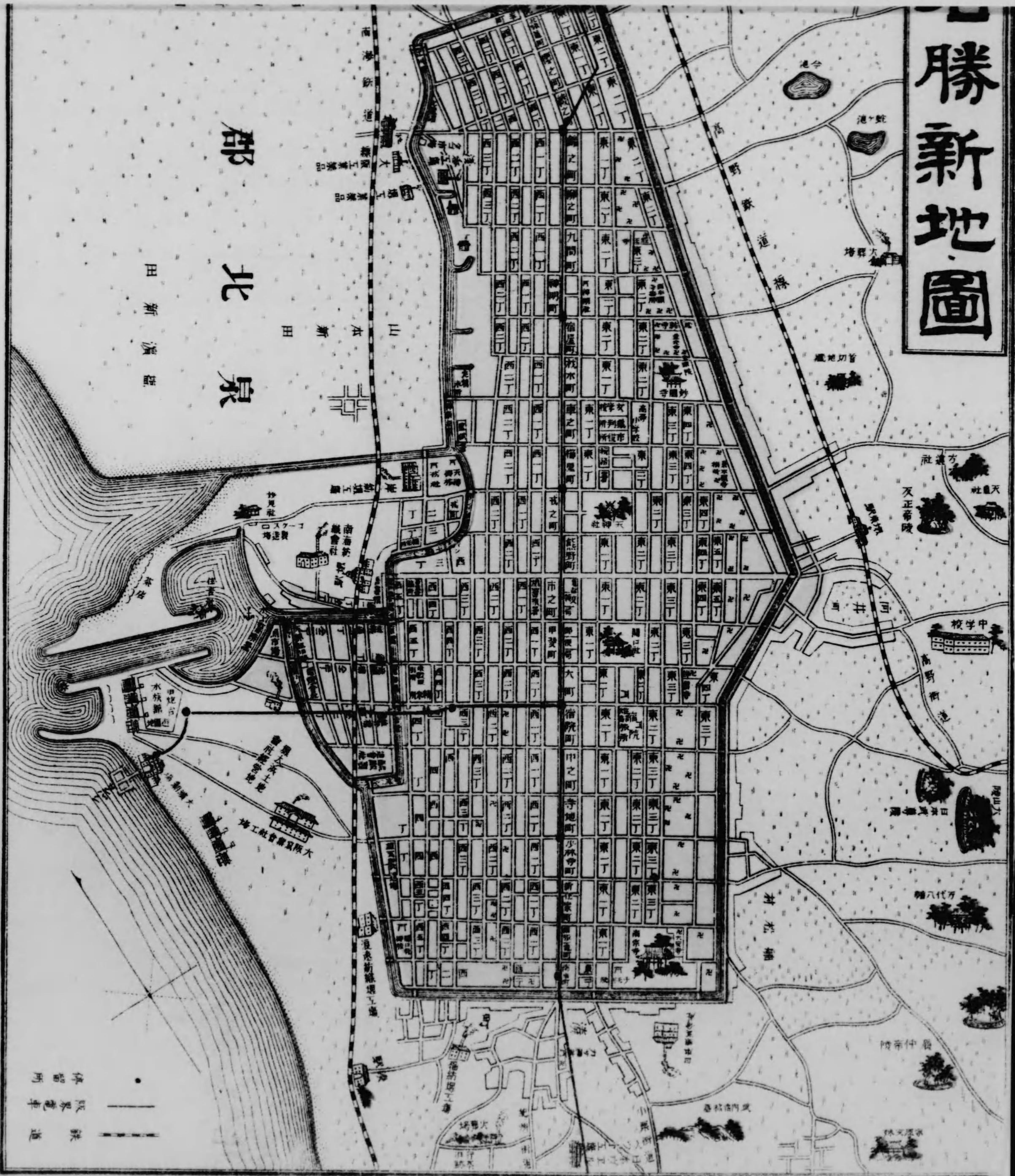
朝鮮釜山南濱町
全 釜山出張店
電話一三一番

全平壤大和町
全 平壤出張店
電話四八番

清國安東縣新市街
全 安東縣出張所
電話二一〇番

長崎市榎津町
全 長崎出張店
電話四二八番

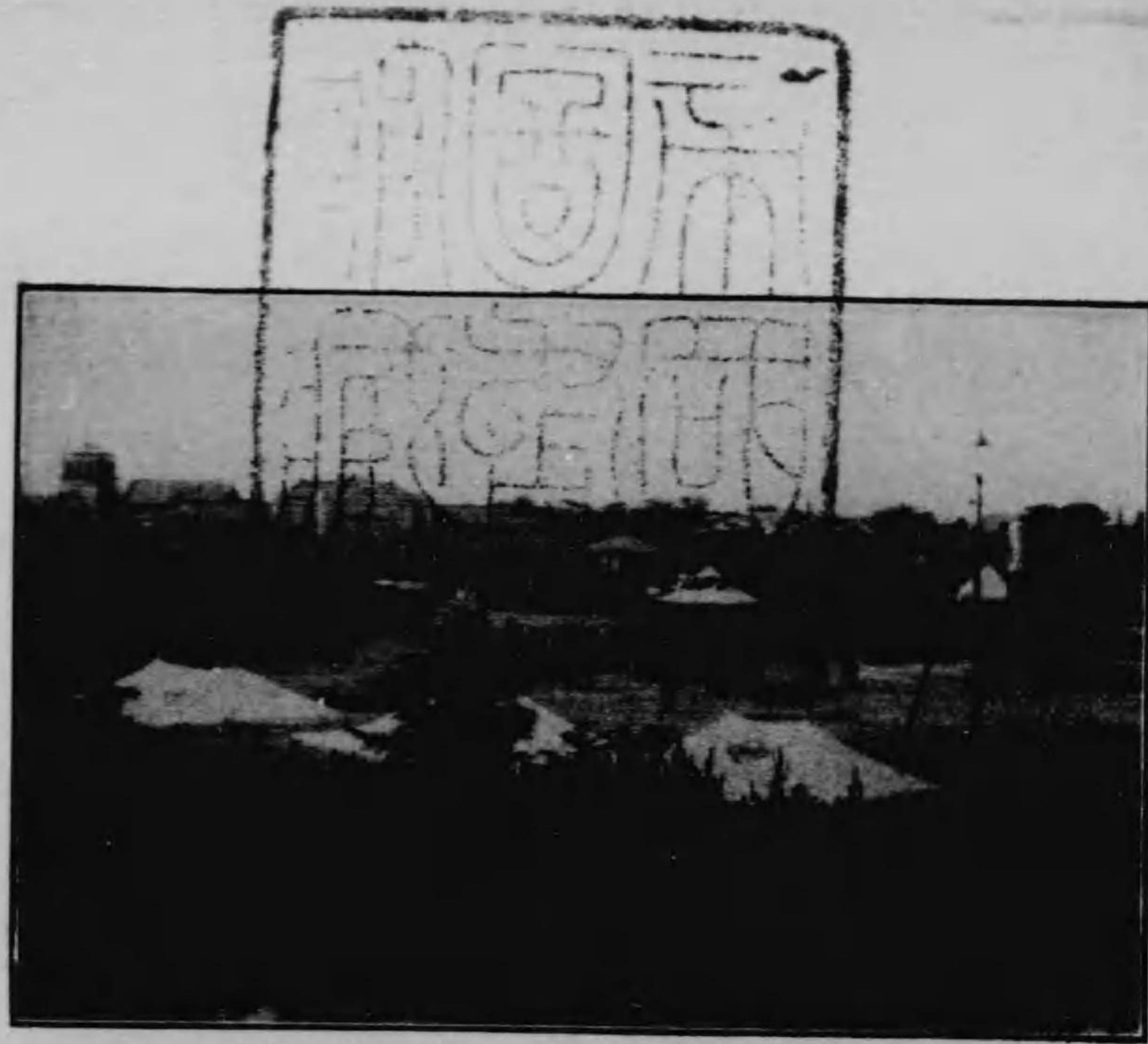
勝新地圖



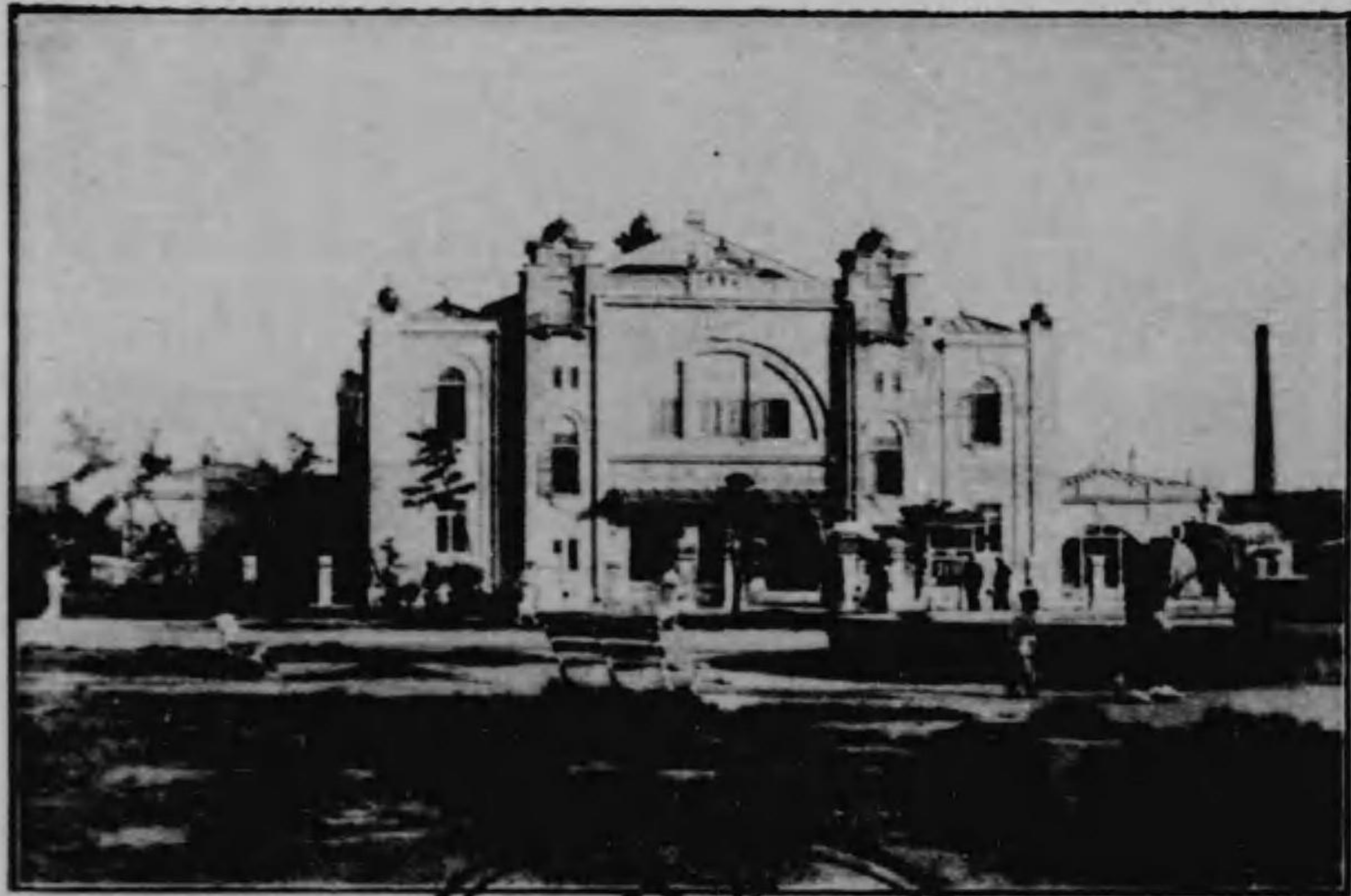
泉北新田

山本新田

鐵路
電車
停留所



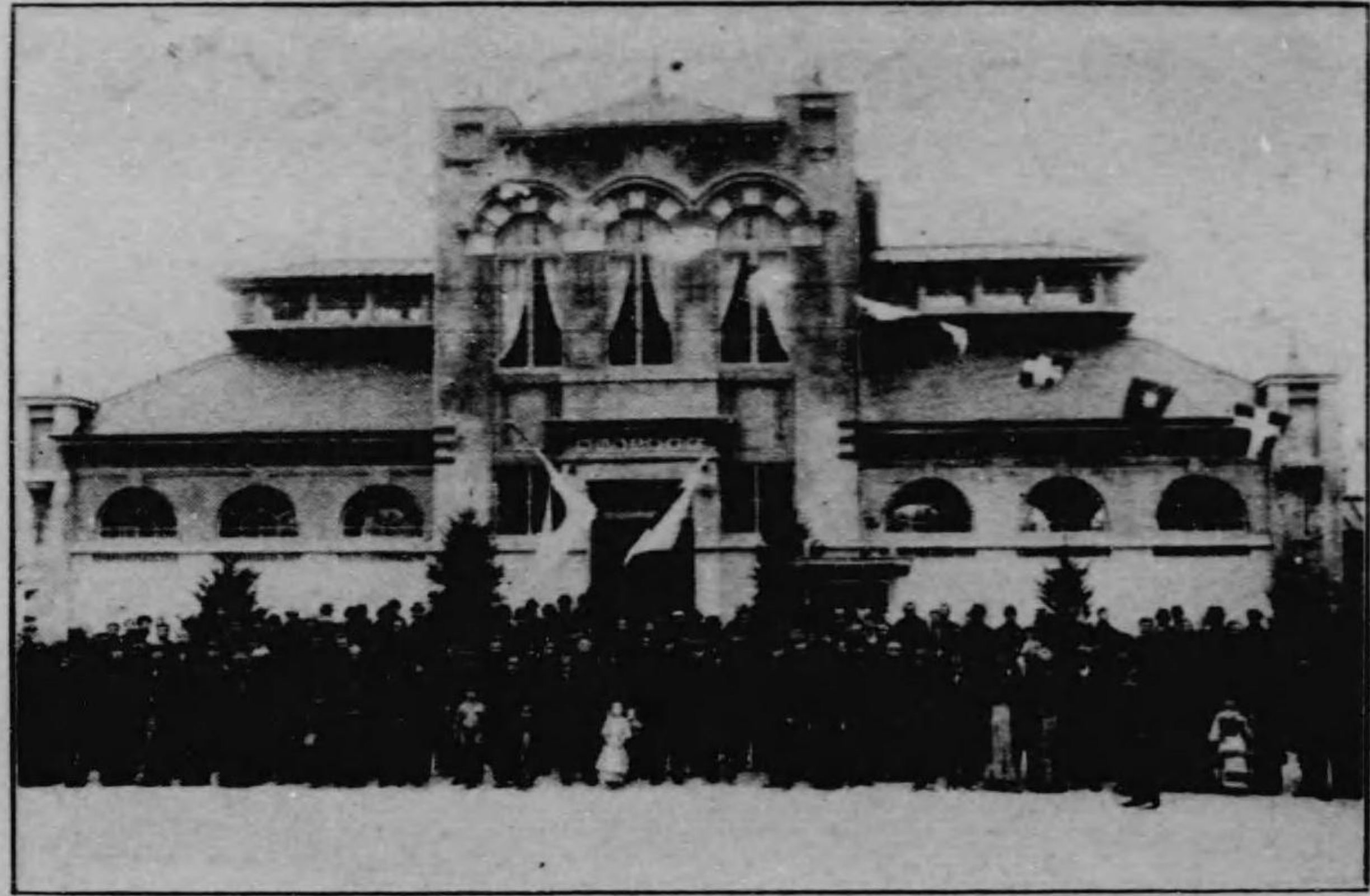
大堤濱公園(水族館)



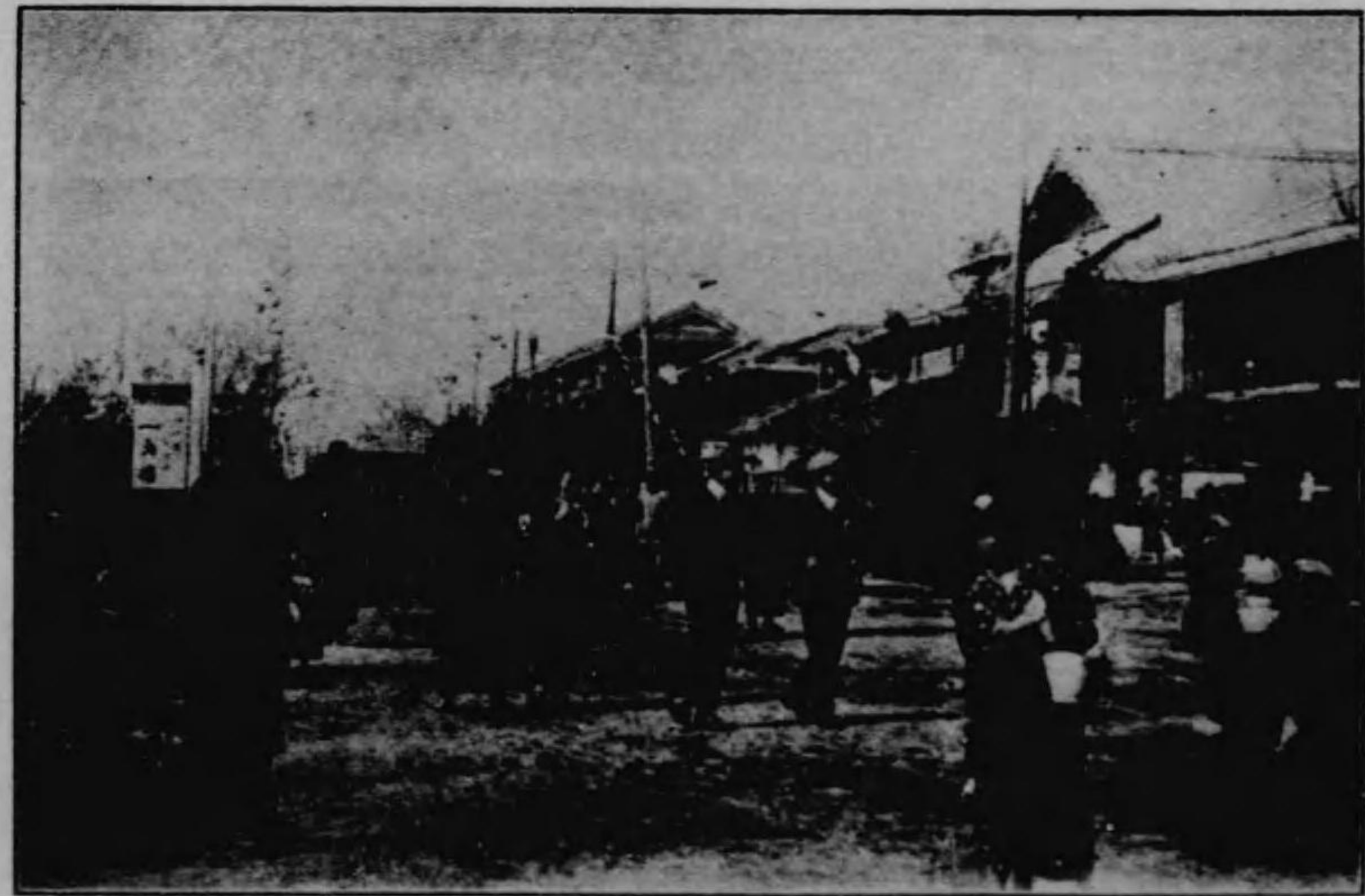
大濱公會堂
8. 11. 25
内交

大津市各鄰標地圖





商 品 陳 列 所



大 濱 公 園



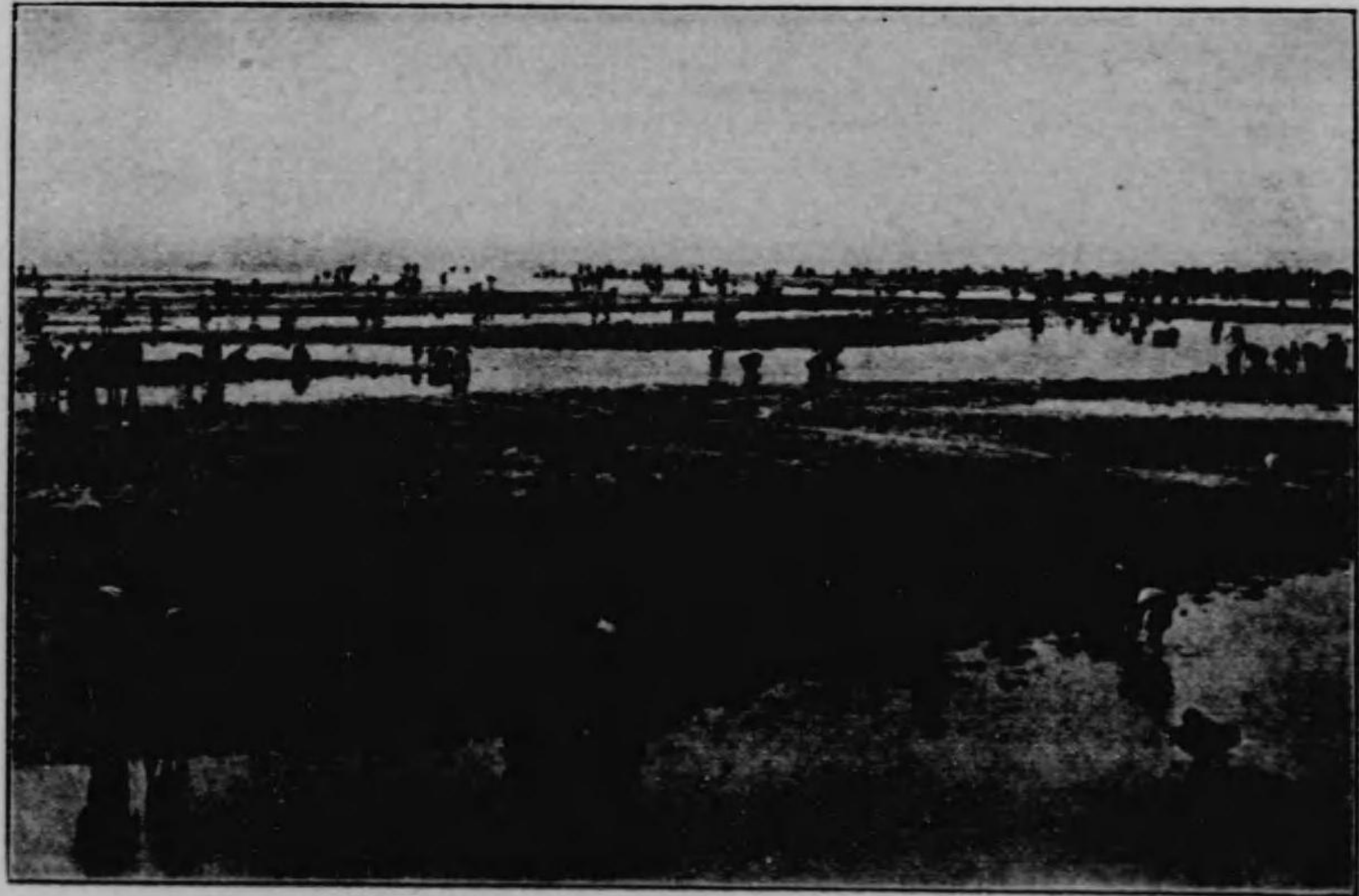
大 濱 潮 湯



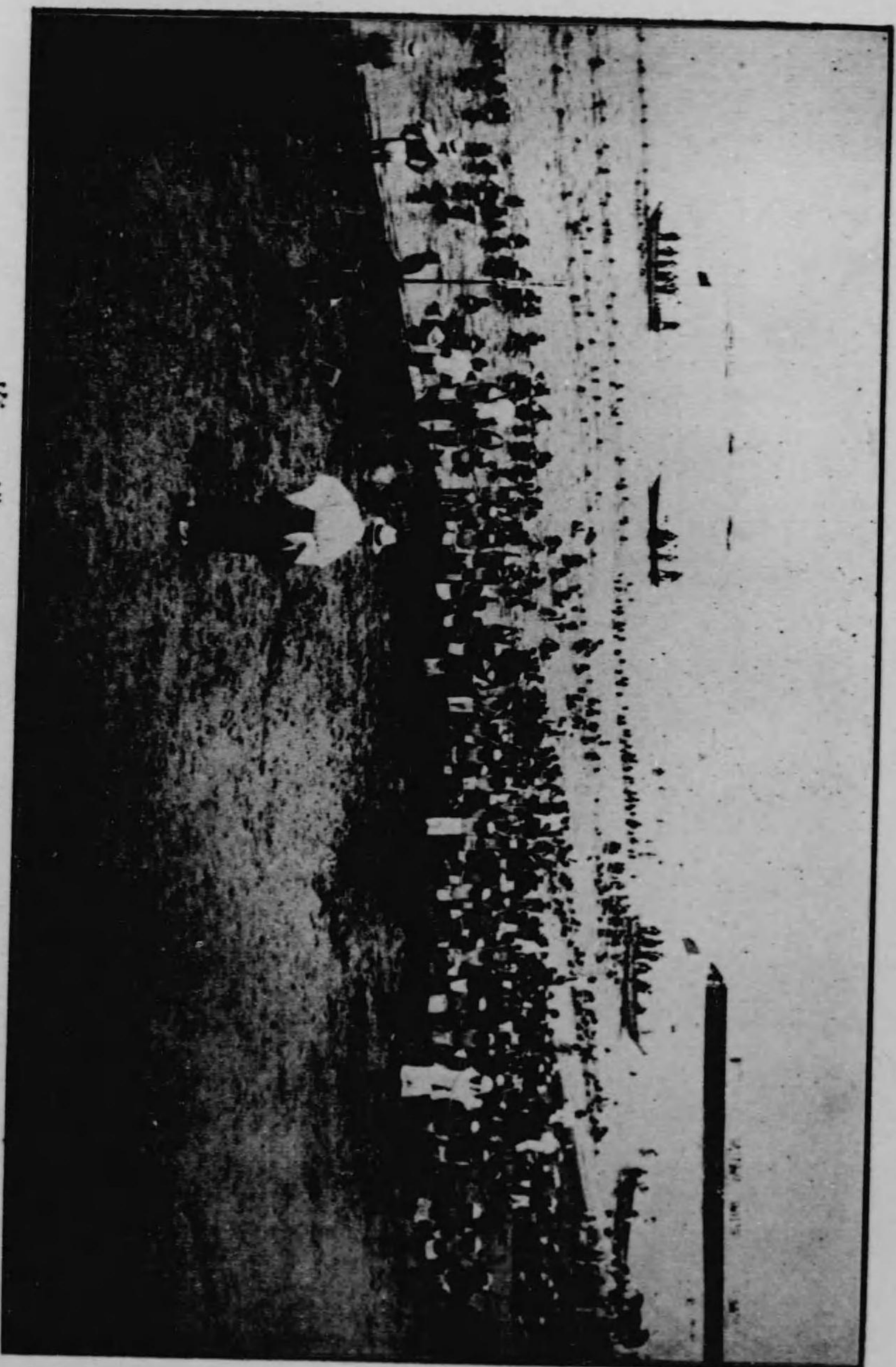
大 濱 棧 橋



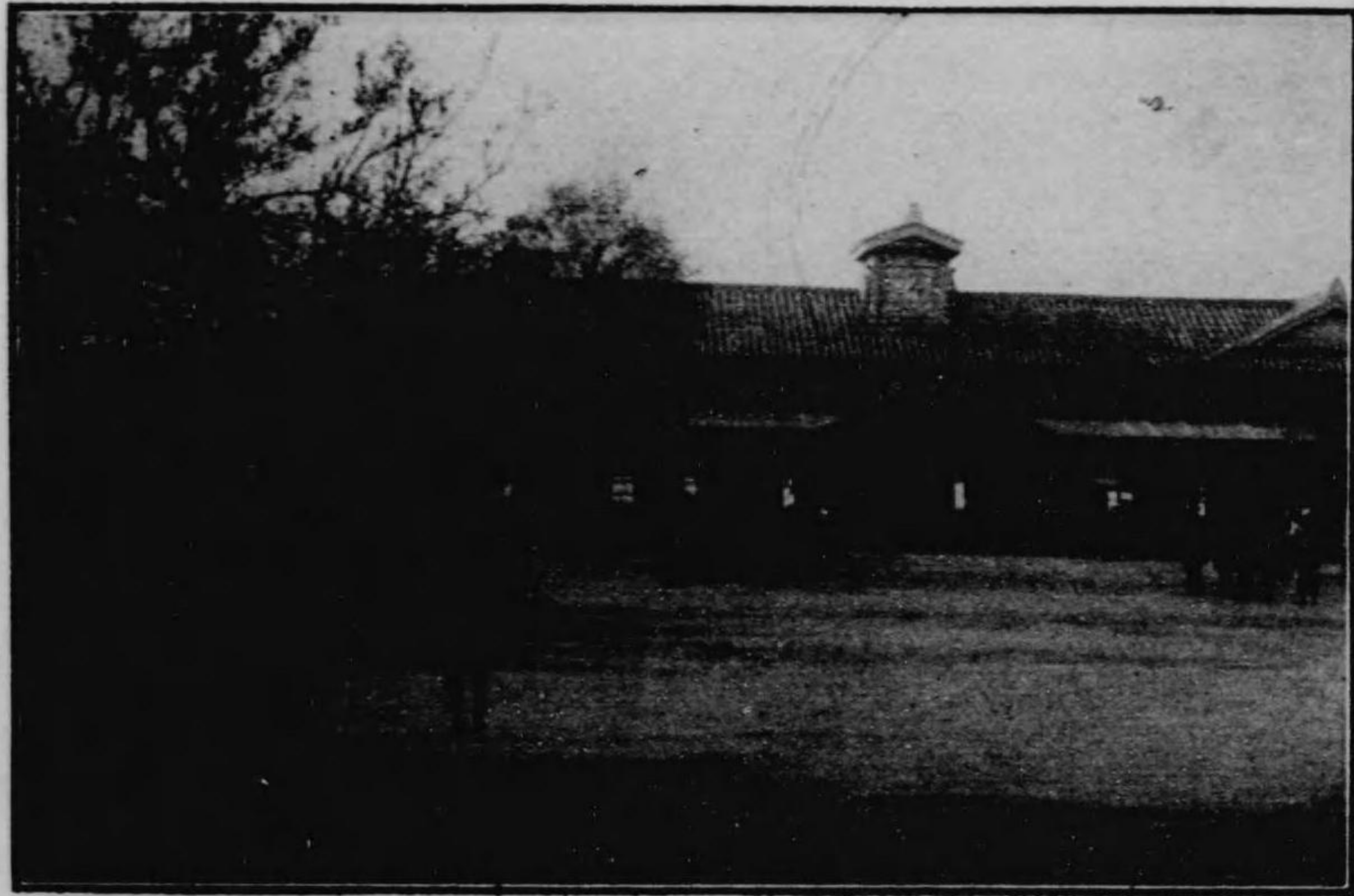
北 公 園



沙 干 狩



大 壘 濱 海 水 浴 場



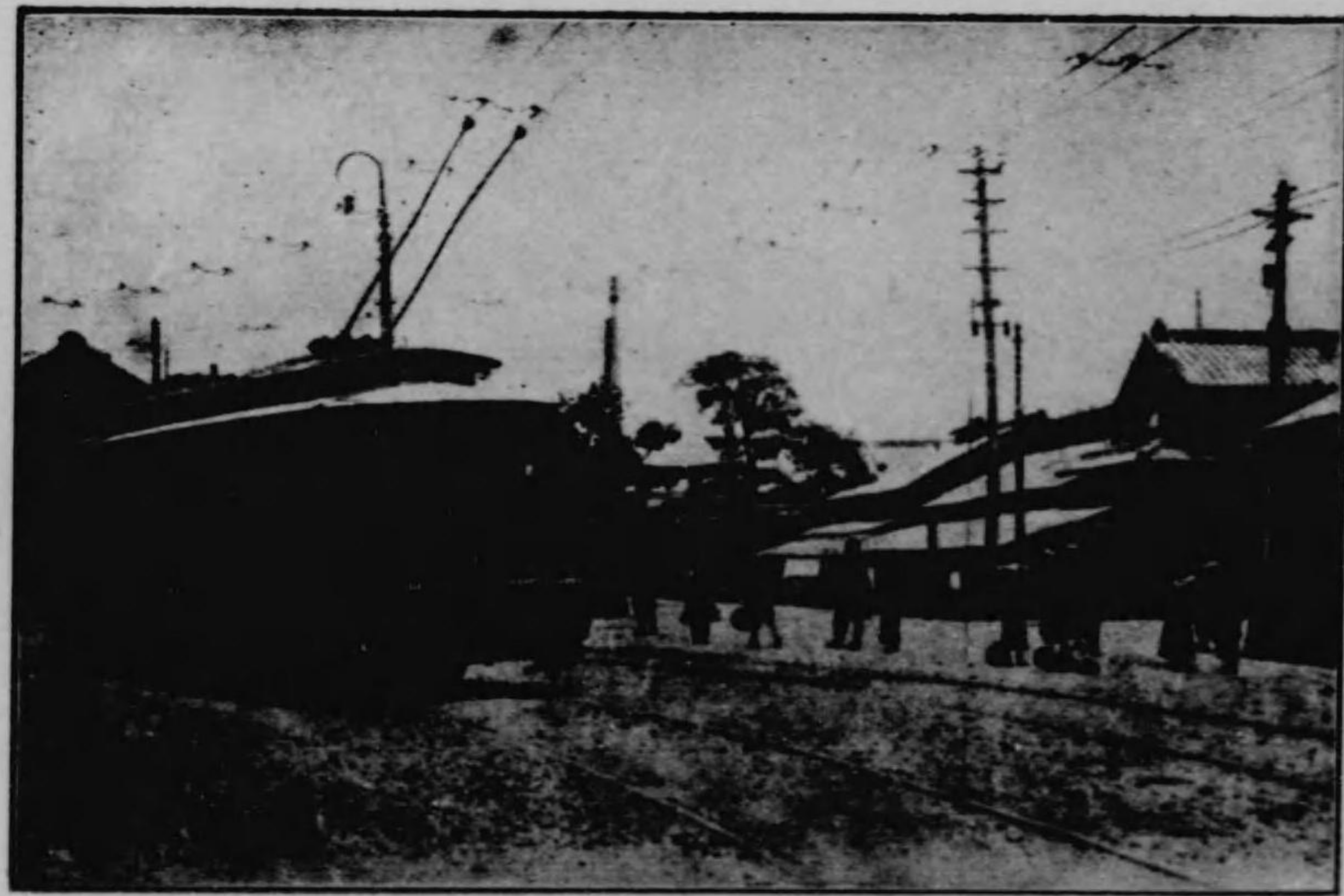
南 海 鐵 道 停 車 場



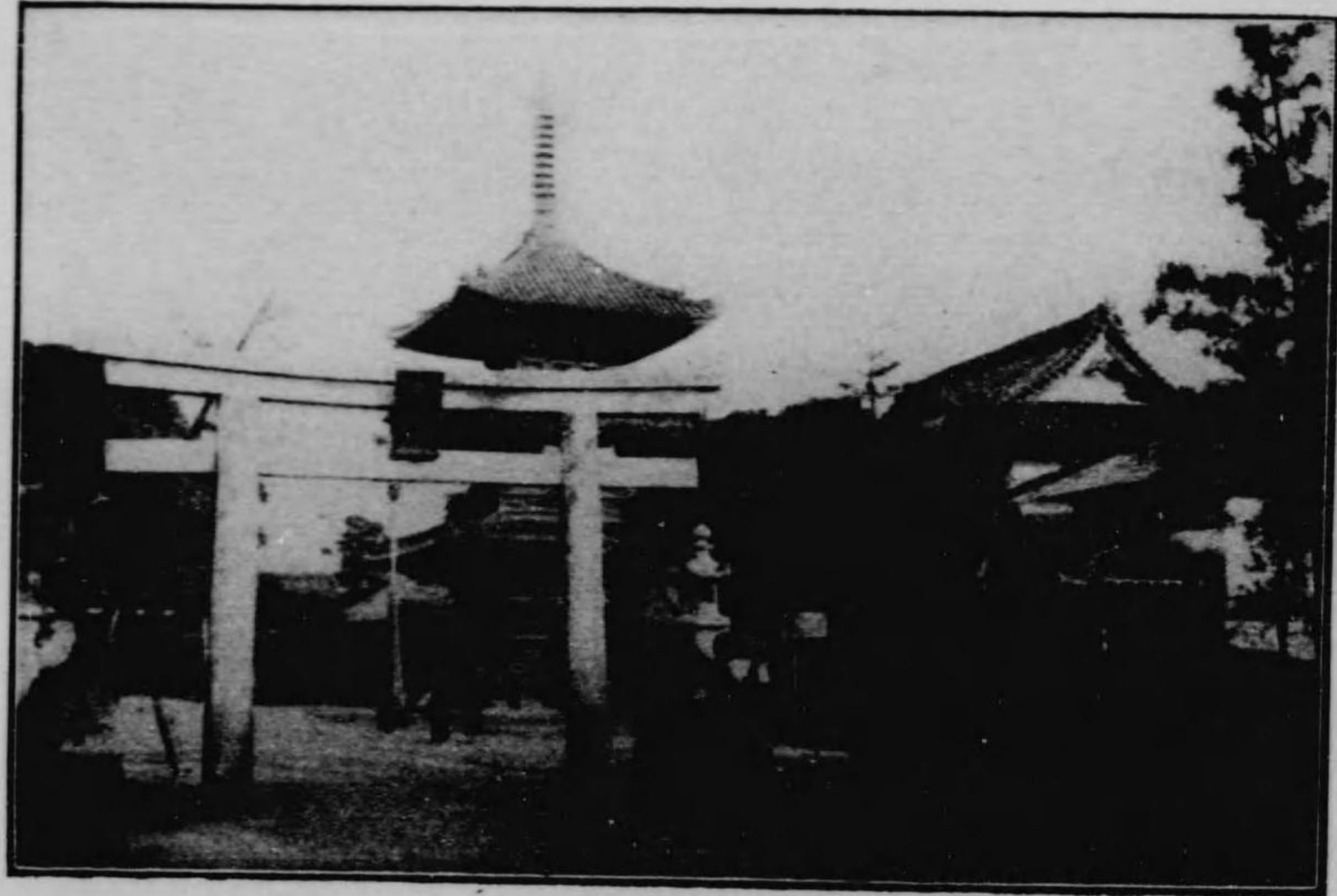
大 小 路 街



官幣大社住吉神社(宿院御旅所)



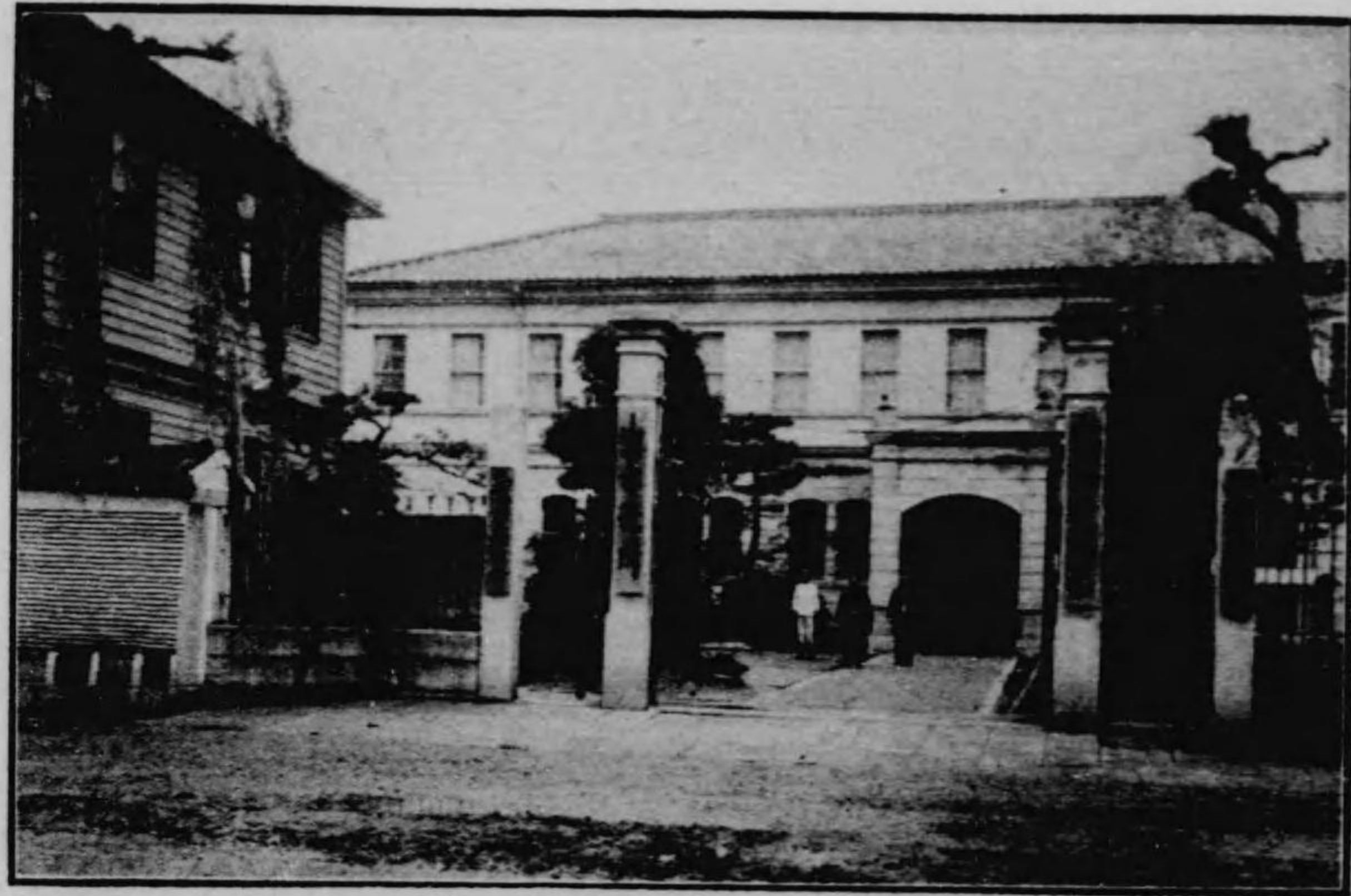
宿院街



府社開口神社(大寺)



南宗寺内坐雲亭



堺市役所



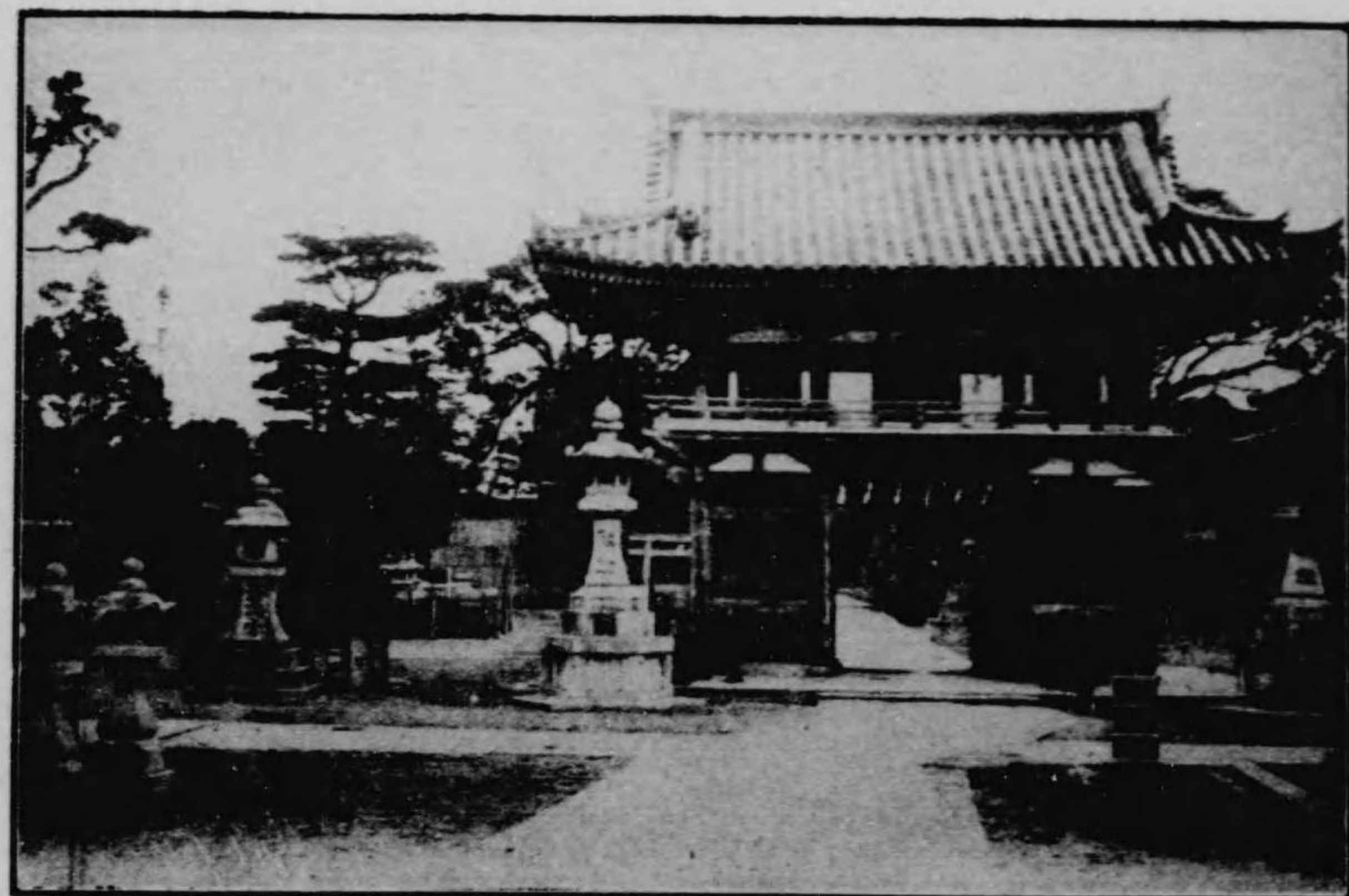
本派本願寺別院



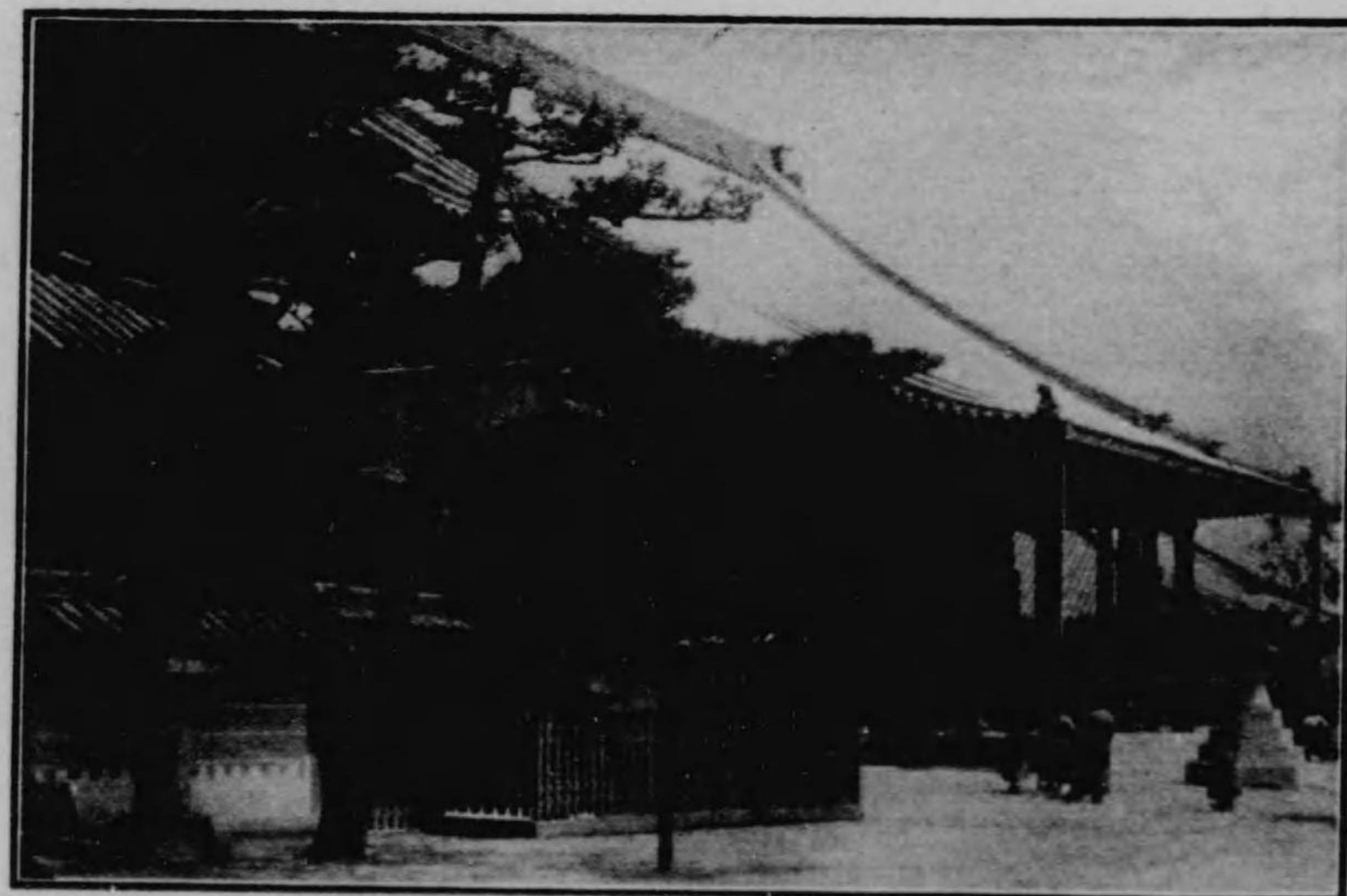
寺 國 妙



墓 墳 士 一 十



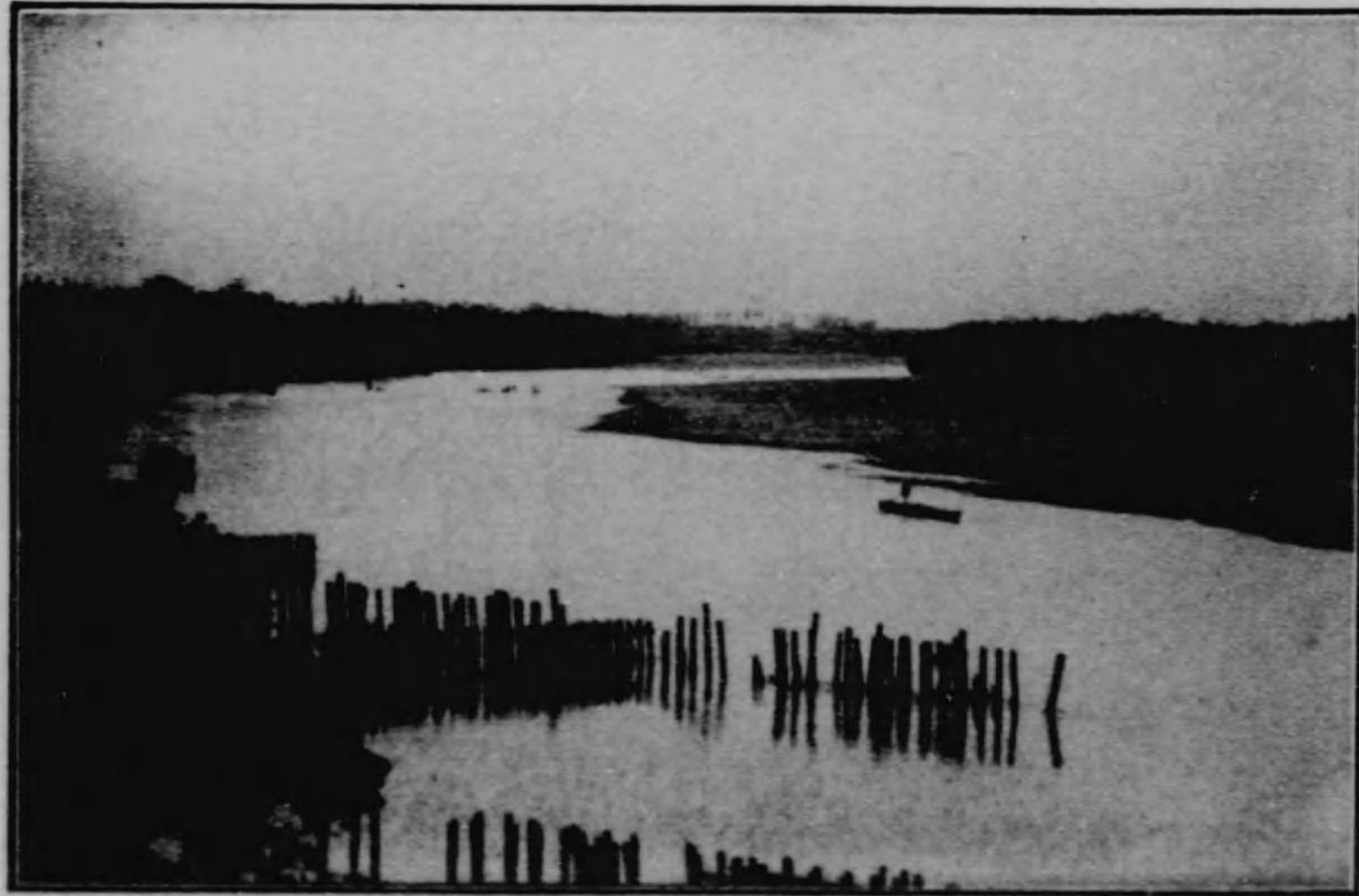
社 神 原 菅 社 府



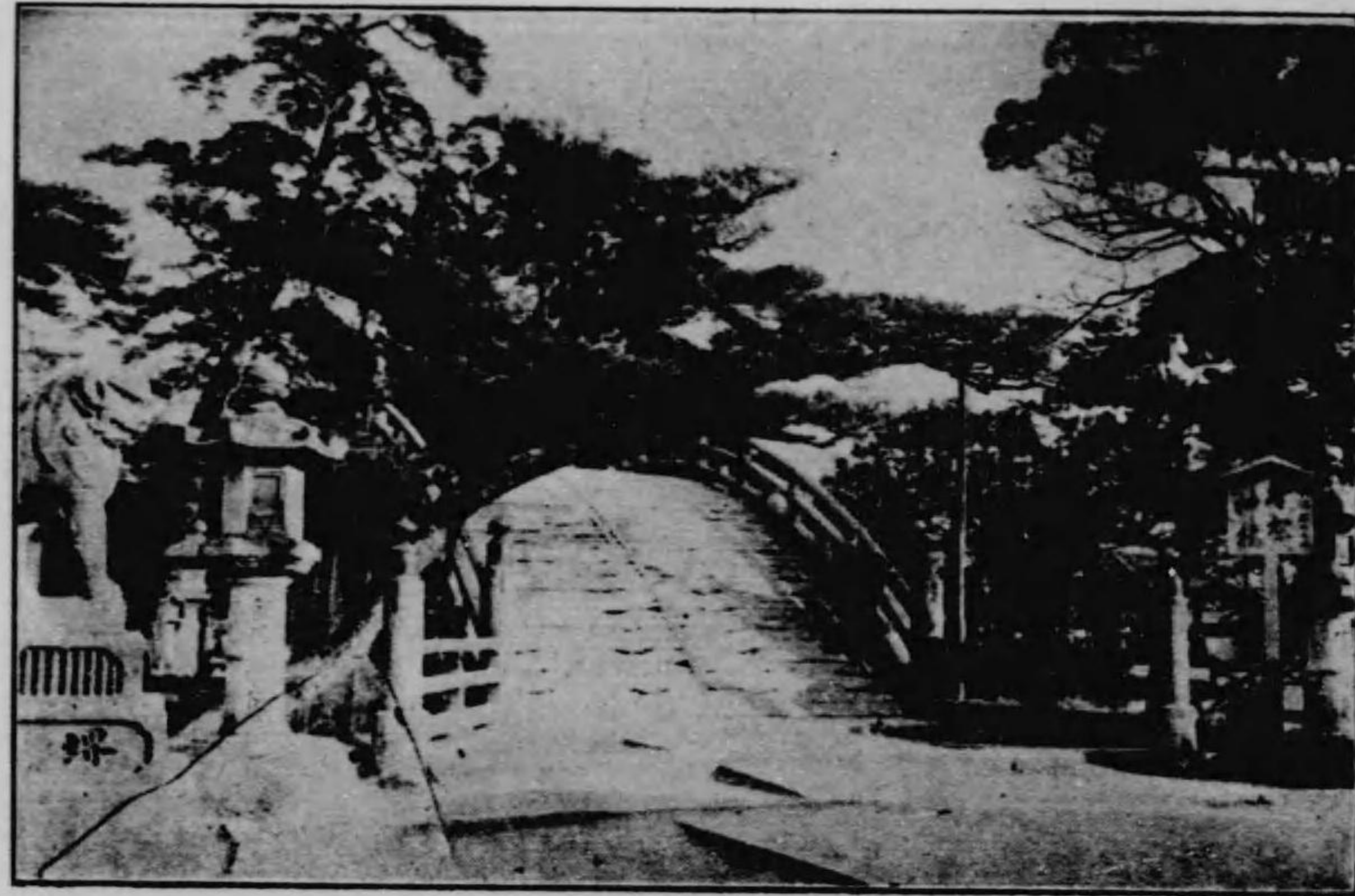
院 別 寺 願 本 派 谷 大



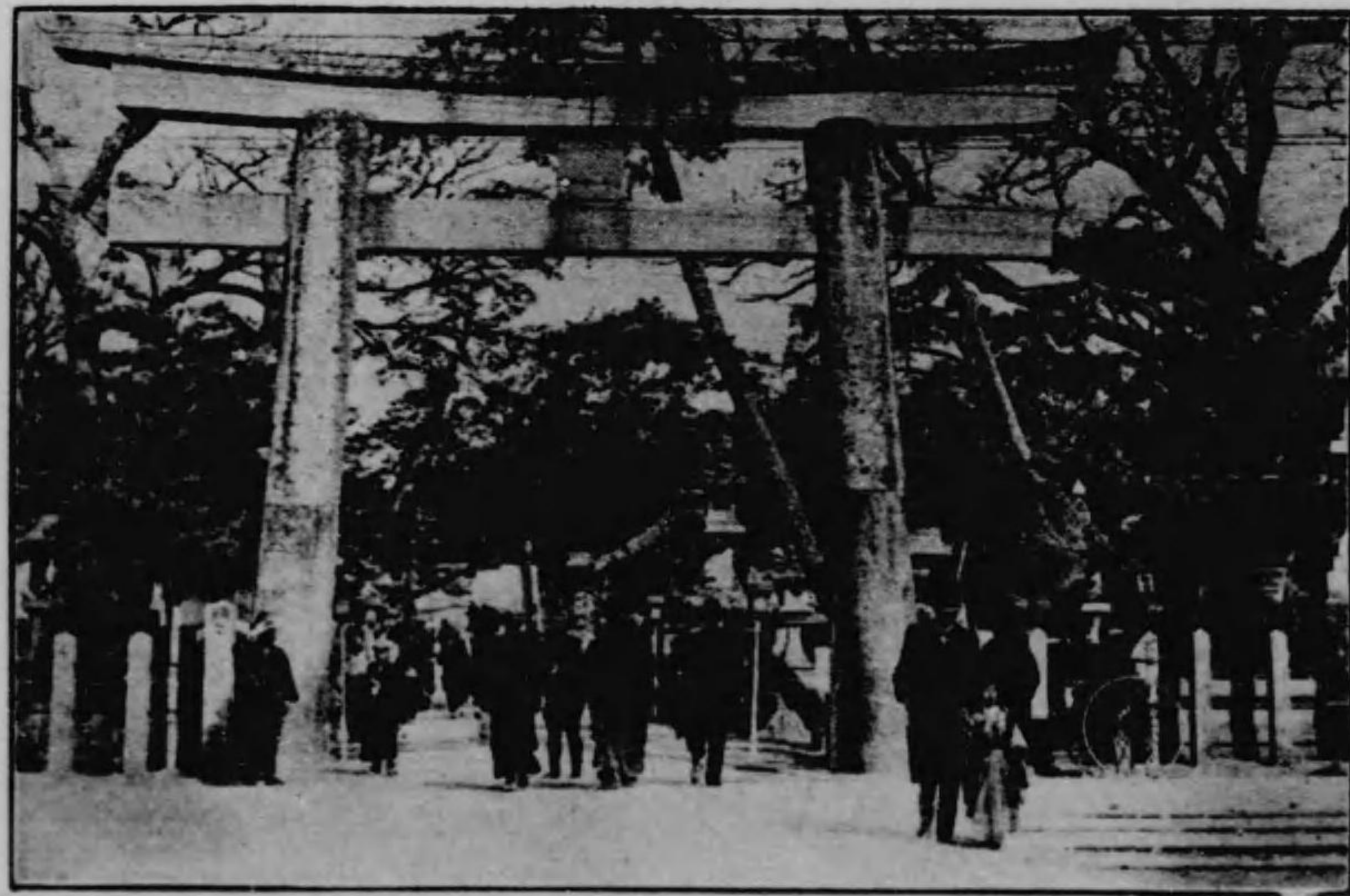
高 須 神 社



大 和 川 (市界水上水道源地至此上流ア)



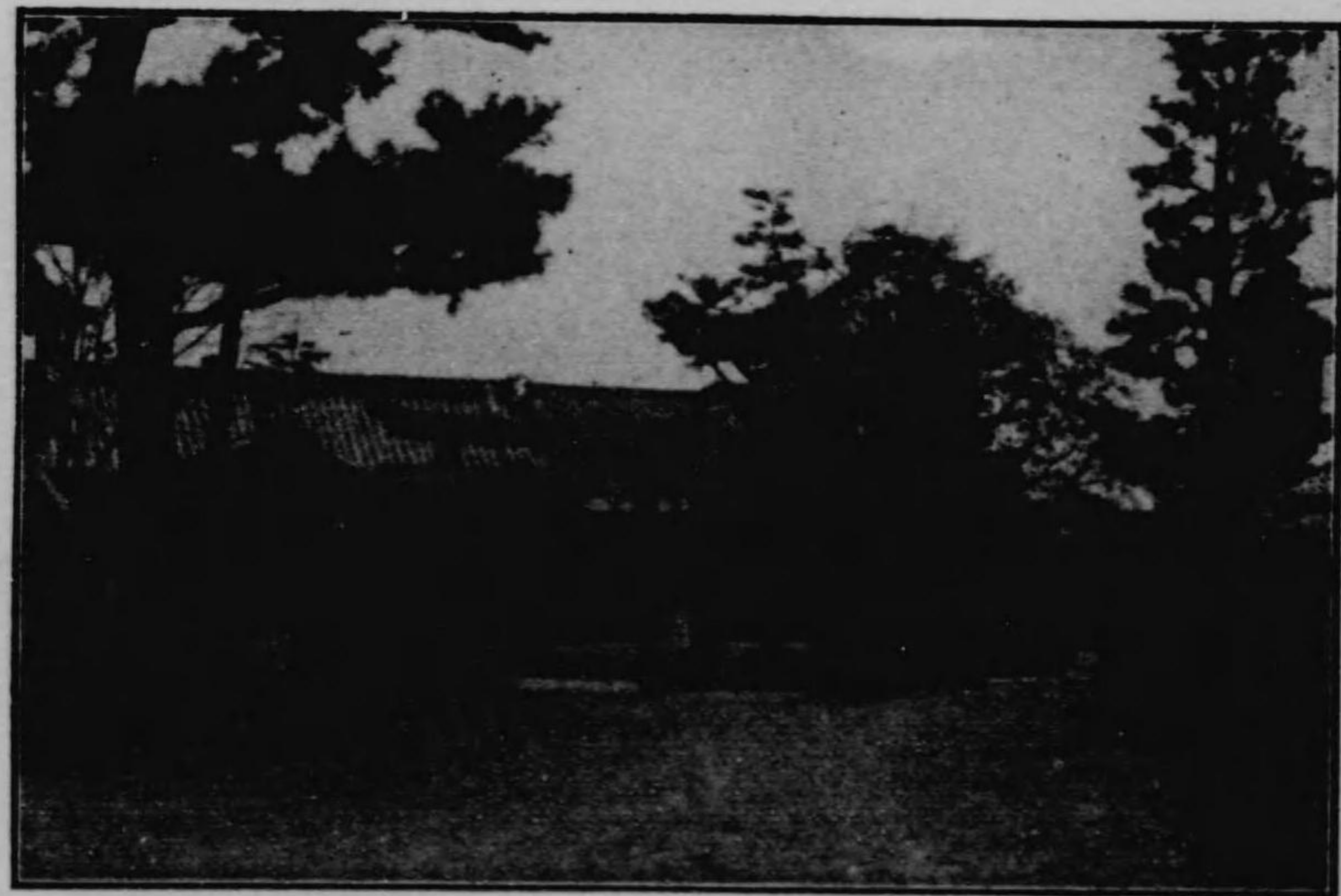
住吉反橋



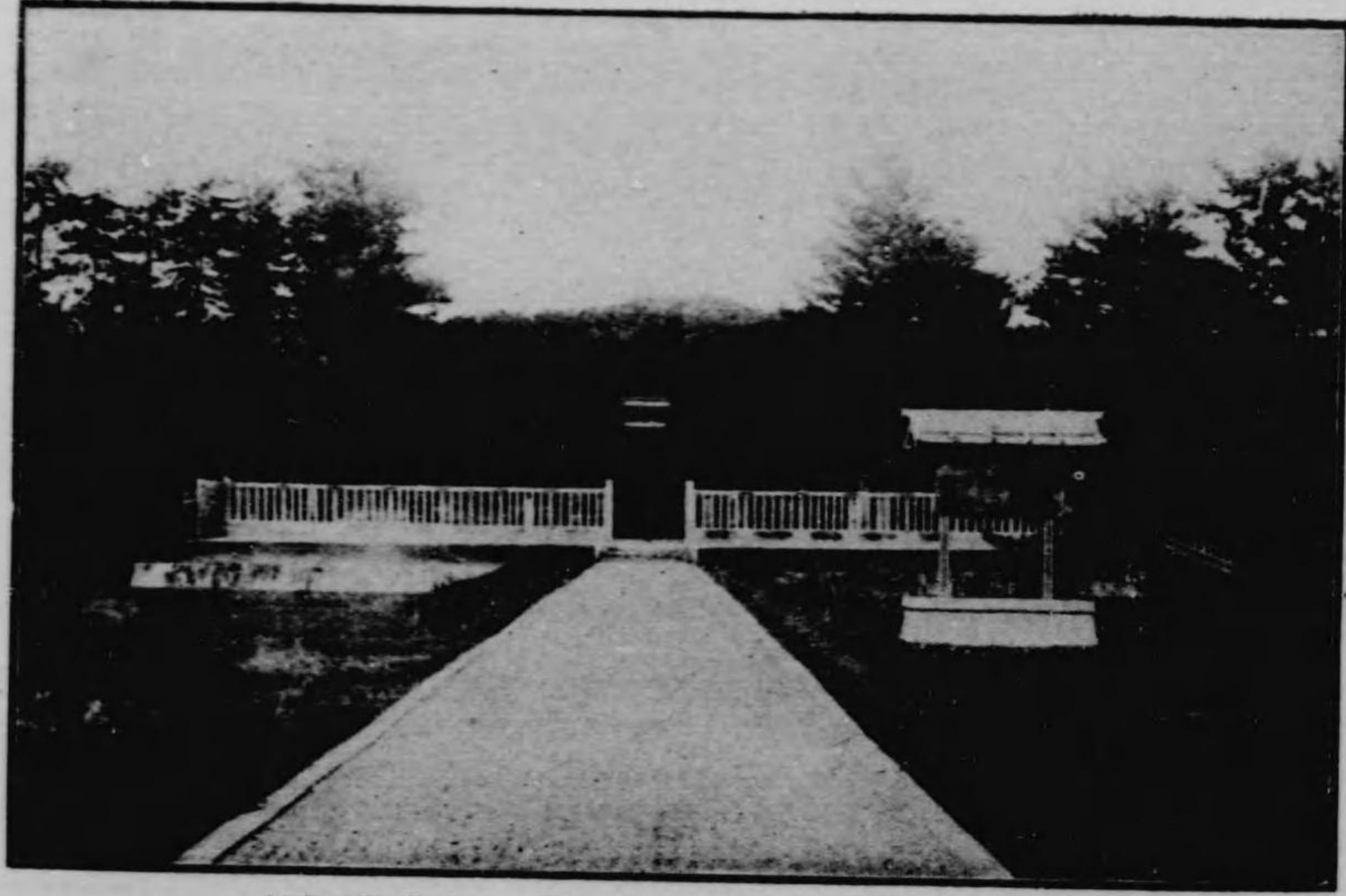
官幣大住吉神社



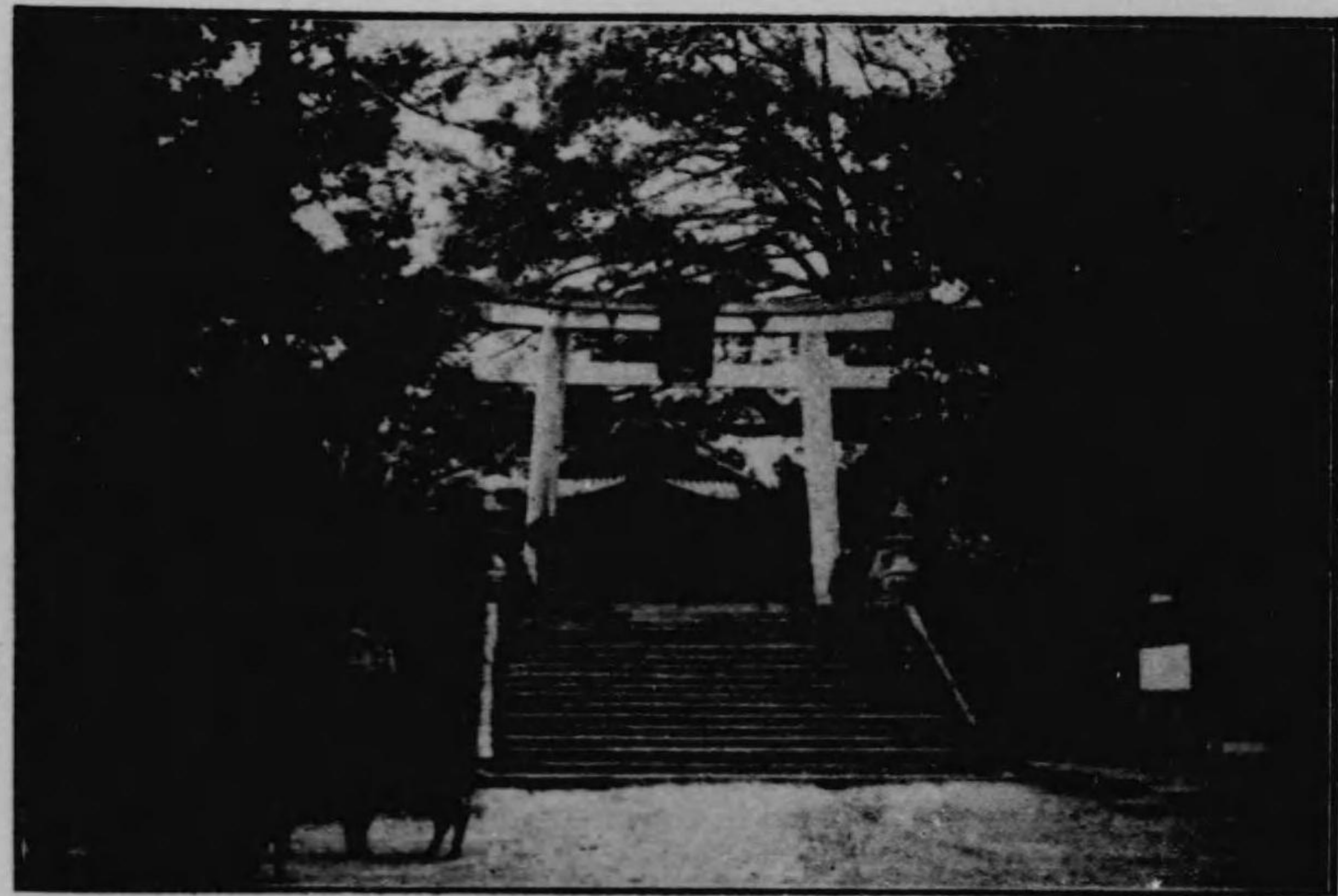
履 中 天 皇 御 陵



方 違 神 社



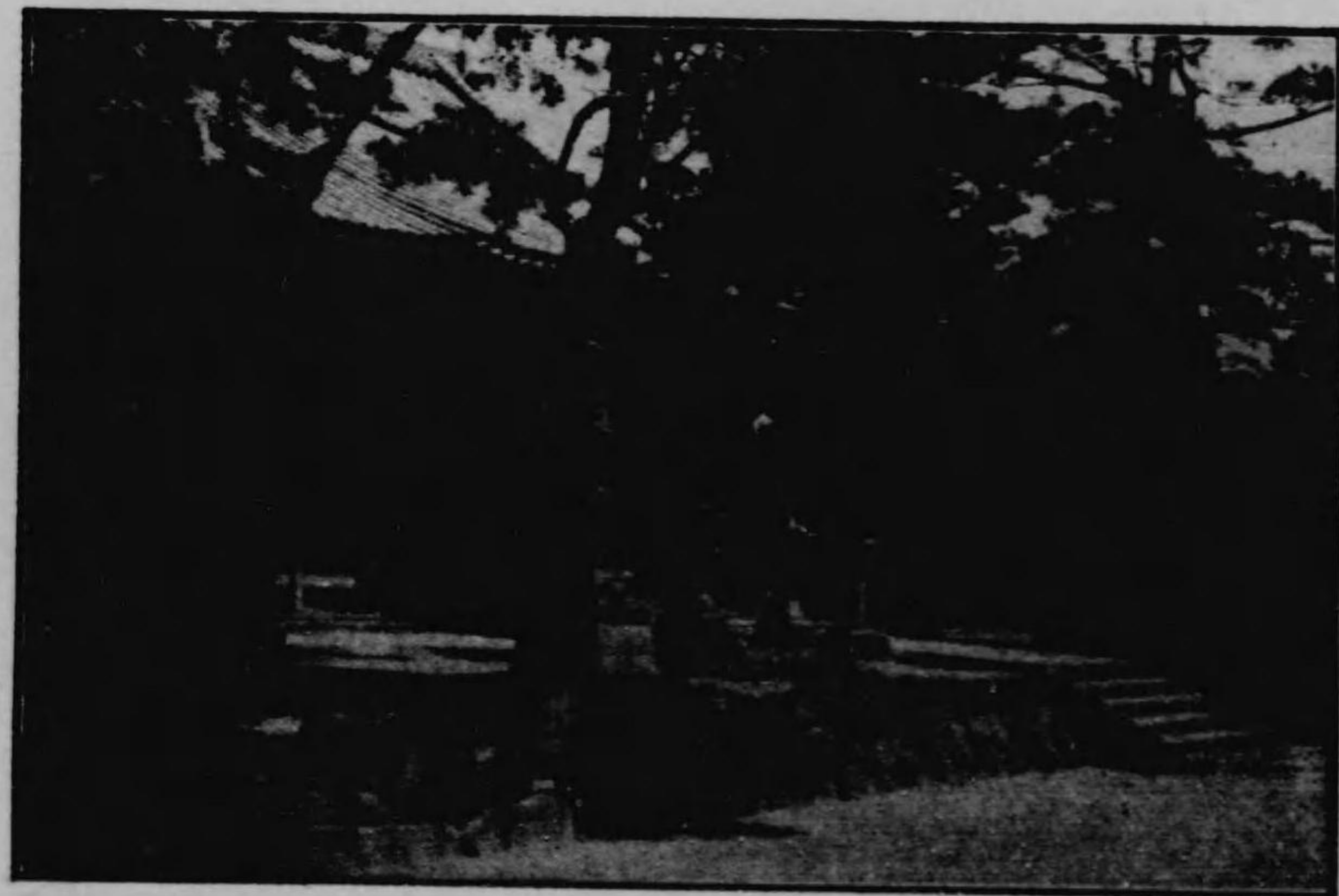
(陵仙大) 陵御皇天德仁



宮幡八鳥舌百



官幣大社大鳥神社



家原寺

373-397

序

昔日の堺は商業殷賑の地として海内に冠たりしが中古豊臣秀吉の城を浪華に築くに及び其の繁榮は漸次吸集せられてまた昔日の觀なし然れども古き歴史を有する堺は妙國寺畔の蘇鐵に刻まれたる魚鱗の如く妙國寺に血染の三寶を留め往古舳松に神功皇后の雄圖を忍び互市場の往事を傳ふる名勝舊蹟枚舉に違あらず

堺市制三十年記念事業として今秋堺大濱公園に關西物産共進會の開催せらるゝに方り勝地廢址の參觀者日に多からんとするに際し聊か案内の葉たらしめんが爲め古書舊記を參酌して本書を編す若し本書が堺市の道路標たるを得ば望外の幸福なり

堺市名勝案内

淺岡蓬城編

和泉國の起源

抑も和泉國は往古河内國に屬し、茅渟海に臨める諸郡なりしが神功皇后新羅を征し玉ふの時、地中俄に浪の如き聲ありて、清泉の噴出一丈に餘り、其流れ清く其味甘露の如く美なりしにぞ、此地方を泉と名け玉ひ、后三韓平定し凱旋の時再び此地を過ぎり賞し玉ふ(現今の清水是なり)、是れ泉の名の起源にして、降て元正天皇靈龜二年の四月河内の三郡を割て新たに一國を置かれ、改めて和泉國と號せられたるあり。

堺市の沿革

堺市は和泉國の北境にあり、攝河泉の境に位せる處にして、堺とは元來地名には非らざりし也、其境界に開口、木戸、原、の三村ありしが、何日しか其村名は消へ失せ、唯堺のみ稱し來りて遂に地名となり、今日に至れるなり、永徳二年、山名氏清此地を領し居城を泉府と稱せり、明德二年に至り氏清足利氏に叛きて亡び、大内義弘代て領主とされり、左れど、義弘亦足利氏に叛きて、應永六年に至りて亡べり、其后三好氏の領地となり、三好

(一) 堺市名勝案内

氏亡ぶるに至り織田信長代りて、近畿諸州を領し、此地に代官を置けり、當時堺は既に商業交通の中心として、海外貿易の互市場として、船舶の出入常に絶えず、百貨輻湊、殷富比類なく、其繁榮實に邦内第一に居り、京師と比稱せり、豊臣氏に至り石田三成、小西行长等をして奉行たらしめ政所と號す、其后近く明治初年に至る迄、世々町奉行を置き此地の政を執らしめたり、維新の后此地に堺縣を置かれしも、明治十四年二月、縣を廢し大阪府に合併せられ今尙大阪府の管轄となれり。

堺市の地勢及び交通

堺市は東、三國耳原の丘を控へ、遠く大和河内の連峯を臨み、金剛葛城の名山高く雲表に聳へ、西、茅渚の海濱を擁して、水天一碧、遙かに一帶の淡山を望み、南、高石濱寺に接し、北、大和川に沿ふて海口をうく、四面の風光頗る明媚にして、空氣亦極めて新鮮あり市坊二百餘ヶ町、街衢整然家屋櫛比、南北卅一町、東西十八町、周圍三里有餘、を有せる一都會とす、現時商工の業大に發達し、海陸の交通至便にして市の中央南北に貫通せるを大道筋と云ひ、此處を起点として、町を東、西何町に分稱す、又中央、東西に通せる廣道を大小路といふ、大小路の西端に(南海鐵道)堺驛あり市の西部を貫通して、南紀伊に至るべく高野鐵道堺東驛は大小路の東端にありて河内に入り長野驛に達す、市の中央部大道を貫

通せる阪堺電車あり大阪今宮惠比須を起点として濱寺に通する短線なるも宿院より分岐して一綿大濱公園に通する遊覽電車もあり好位置を占有し居るを以て近來乗客多し又汽船ありて海運の便あり其他郵便電信電話等通信の機關完備し銀行會社警察中學校病院劇場勸業場 全く整頓せり

堺市の人口戸數

昔日に於ける堺市の人口戸數は詳かあらざるも最近大正七年十二月の調査に依る戸數は一萬三千餘戸にして現住人口七萬四千餘人ありて近く接續各町村の併合するに至るべく年々増加の傾向を呈せり

堺市の名勝舊蹟

堺市は既に述べたる如く、昔時非常の繁榮を極め、且つ由緒ある名區なるが故に名勝舊蹟も亦随つて多し、是より其概略を記載せん、但し讀者の便を計りて道の順序によれり、故に其所在地の市外に渉るものもあり、讀者之れを諒せよ、先づ、

茅渚の海

茅渚の海とは堺市に面せる西方一帯の海を云ふなり、往昔神武天皇、東中洲を征し玉ひし時、皇軍利あらずして、皇兄五瀬命流矢に當り薨じ玉ひしが、其時矢瘡を此海にて洗滌し玉ふ、故に此邊の海を稱して血沼と云ふに至り、後世改めて茅渚の海と稱せり

大 濱 公 園 (寫真畫參照)

元大濱所在陸軍省所屬舊砲臺敷地を堺市に借入れ明治二十八年三月許可を得て遊園地の設備を装置し今年四月三日大濱公園の開園式を舉行せり越て明治三十五年十月十日南附洲新田官有地六千三百二十三坪一合七勺を公園地に編入の許可を得たるを以て明治四十年曩に借入れたる舊砲臺敷地一萬五千七百六十一坪五合を陸軍省より拂下を受け更に大濱南公園地境界より以南泉北郡湊村境界に至る官有地二萬五千九百二坪一合を公園地に編入の許可を得たるものにて今の南新公園之れあり、大濱公園は西茅渚の海に臨み北東は水族館及び其外堤を負ひ防波の石堤遠く海中に突出し此處に燈臺を設け不動綠色の光輝遙に海面を照し、暗夜船艦往來の便に供せり而して潮波琴々として汀濱を洗ひ、海邊茶肆酒樓軒を並べ和風洋式三層四層の樓厦巍々として互に輪奐の美を競ひたりしに明治四十二年三月廿九日午前一時祝融の厄に罹り茅海樓を除く外烏有に歸したり其後四階五層の高樓は危険なりとて總てを二階建としたり、就中重なるものは一力樓茅海樓川芳樓丸三樓丸万樓とす之れらの諸樓に登り欄に凭りて遙かに眸を放てば東北には岡阜延々、和泉の翠巒を望み、殊に水旅館の庭園は瞰下にあり、西南には海色湛々紀淡の山霞に連あり、白帆搖々として欸孕の聲幽に海波藍の如く、平沙雪を欺むき、風光の美なる畫も及ばず、月雪殊に曉色暮景最も

大 濱 の 海 水 浴 場 (寫真畫參照)

佳あり、加之、毎朝魚市あるを以て鮮魚を口にすべく、且つ夏日は海水浴に適し殊に南海鐵道の經營せる潮湯及海水浴場の設備完全せり、故に避暑保養には絶好の地とす。泉州の沿岸は一帶に白砂遠淺にて夏季に於ける海水浴場の好適地あり殊に大濱の海岸は細砂遠淺あれば満潮の際も危険の憂ひなく海水浴場として最も歓迎され毎年學校生徒の海水浴場として市より相當の設備をまし居りしが大正元年より阪堺電車が海水浴場の設備を完成して浴客の便利を計りたる以來夏季に於ける大濱の海水浴客は非常に増加して頗る殷賑を極め居れり。

大 濱 公 園 の 改 修

堺市は大正元年度に於て阪堺軌道會社(今は南海鐵道に合併)と契約を締結して公園の改修設備一切を阪堺の經營に一任せり阪堺會社は公園地水族館庭園内へ公會堂を建築し(寫真畫參照)引續き大濱の波打際へ高樓の潮湯(寫真畫參照)を新築し又た海中には大海樓(寫真畫參照)棧橋を構築し又堺市にては市内各製産品を紹介する爲め公園内に商品陳列所を建設し堺市に於ける製産品を陳列即賣を爲す等大濱公園は舊來の面目を一新するに至り而して潮湯の如き春夏秋冬浴客の絶間なく繁昌せり。

魚 市 場

毎朝未明より漁船此濱に來り市を開き、鮮魚を糶賣するなり數百の商人四方より集り、先を争ふて魚を買ふ其様面白く且つ勇しく甚だ奇觀なり、殊に例年七月三十一日住吉大祭宵宮の夜は大市を開き、殆んど夜を徹す賣る人買ふ人覽る人四圍に群がり、喧々囂々廣き大濱も立錐の地なきに至る。

北 公 園 (寫眞畫参照)

こゝは渡しの小舟にて對岸に達すべく、大濱公園の北なるを以て北波戸とも云ふ、此處も亦公園にして面積甚だ廣く、元とは砲臺なりしあり、風景富瞻、南公園とは比較的閑靜にして、眼界革まりて眺望其趣を異にす。西北には遠く須磨、明石、神戸、大阪灣、を望み、近く住吉の松林、高燈籠等見ゆ。酒樓には松波樓丸屋其他あり茶肆亦多しと。殊に陰曆上巳の日は大汐と唱へ潮水數里の間干瀉となるを以て、汐干狩には實に適當の場所とす故に例年幾多の男女、腕を捲くり裳をからげ、嬉々として樂しむ様之れ亦た言ふべからざる好景あり、西南隅に神社あり、之れを浪除住吉と云ふ、其北畔に巍然一碑石の立てるあり之れ寛政より文化年間に渉る三十四年間獨立經營萬難を排し苦心慘愴の後ち終に堺港改修の功を完了し偉大なる利益を堺市に與たる、吉川表右衛門の紀念碑にして明治三十三年市

有志者の建立したるものなりそれより再び大濱公園に戻り水族館に至るべし。

記念の水族館 (寫眞畫参照)

堺水族館は明治三十六年三月第五回内國勸業博覽會が大阪今宮に開かれたる時其附屬として四月二十日堺大濱の地を相し水族館を建設したるものにて

畏くも全年五月五日 先帝陛下の行幸

翌六日 皇太后陛下の行啓

全月二十九日 聖上皇后兩陛下が東宮に在せし當時行幸啓あらせらる越て

全年六月十日常宮 周宮 兩内親王殿下全月十八日富美宮泰宮兩内親王殿下御同列にて御成

妙國寺へも御立寄あらせらる

斯の如く水族館は千載一遇の好機ありて全市洽く聖恩に浴し鴻澤を被りたる之の記念すべき建造物は閉會後堺市へ拂下を受け全年八月一日より堺水族館と改稱し魚介類を收容し以て今日に及びり今猶水族館階上には先帝陛下の玉座を保存し開館中毎年一回公衆に拜觀をなさしめ居れり。

水族館の所在地は舊砲臺の跡にして、從來中央は廣濶なる平地なりしが今は山を築き石を疊み樹木を植む庭園の工事宏壯美麗を極む、水族館は其西北隅に建てられたる二階造の西

洋館にして、階下に養魚槽を設け、階上を休憩所とす、水族館前には福羽逸人氏の意匠に成れる佛蘭西式の美麗なる庭園を設け、又壯大なる噴水器をも設けらる。水族館の建坪は二百十八坪水塔水槽の大きさ十二坪五合あり養魚槽の設備は、理學博士飯島魁氏の考案に成るものにして新機軸を出し、魚族の生活する眞景を示すの趣向にて巖石の有様の如きは、保津川の實地を扮本として種々工風を凝したりと、其中央魚槽の裝飾は、甲乙の二種に分ち、甲槽の分は上層を總て奇岩怪石にて、積立て下層は深く地中に掘下げ水中に鵜又はカイツブリかごの潜水鳥を放ち時々餌を投じて其出沒する様を示し、乙槽は光線の薄き場所に設け是には幽邃にして凄味を帶る様の裝飾を施し上下左右悉く岩石にて積上げたる處恰も水中を旅行して魚族の遊泳及び海底の砂中に眠る状態等を寫し得たる所頗る妙味深く水産物教育上の好参考となるべきもの多し。

堺 港

俗に灣戸と云ふ、灣内は常に橋頭林立、和洋船艦絶えず碇泊し櫓聲日夜波に徹す、春は舟遊びに夏は網打に、秋は月に沙魚釣に、冬は雪見に、朝霞晚靄風光大るに掬すべし

名譽の旭館

前に堺港灣を控へ構内庭園屋舎の設備整頓し甚だ莊麗を極む博覽會當時は總裁閑院宮殿下

を初め各宮殿下の御旅館に宛てたるが先年參謀旅行演習の際竹田宮殿下の御旅館に宛たる名譽の建造物にて堺紳士の共有互樂場たり

天誅組義士上陸地 (寫眞書參照)

文久三年八月中秋の夜、彼の天誅組の志士が勤王の大義を唱へて輿論を喚起し、遂に維新の曙光を放つに至れる、中山大納言忠能朝臣外三十餘名の同志が、船を天保山より出し、上陸したるは此地点にして、當時艦船を繋ぎたるは、此處に繁れる楡の老樹にて、忠木と稱せらる、而して此碑石建設に就ては、八半田安郎氏の與つて力ある處とす、

龍 神 町

元此地は寂寥たる邊陲なりしが、海岸に近き場所とて、初め二三の青樓を設けしが漸次増加し、遂に一區畫を成すに至り、紅燈青樓相連り、近時益々隆盛を極め、管絃の音晝夜絶えず、歌妓亦一派の風あり、此廓を東に出で北すれば又廓あり

榮 橋

蓋し龍神町は大樓と稱し、稍高尙あるに反し、此廓は白粉紅裝店頭に坐して、漂客を招けるより此廓を小店と稱す、故に素見の客軒下に重來し深更尙賑し、是れより勇橋を渡れば、南海鐵道堺驛(寫眞書參照)の前に出づるなり、

戎島

此島は寛文四年、海嘯に依りて出現し、同六年蛭子の像を海中より得たるを以てこゝに一社を建て此島の名とせり其社は今尙現存し毎年一月十日福を祈るの賽人雑沓す開墾の當時は船舶發着し劇場遊所等ありて常に絃歌の聲絶へず、中にも織田居茶屋尤も名高かりしも今は夫等の面影は湮滅して、紡績、製油、精米の諸工場の烟突聳立し絃歌は流笛の響と變れり

七堂が濱

戎島の西北にあり、往昔行基菩薩が駐錫せし高須寺七堂伽藍の在りし舊跡なり次に

高須 稻荷 (寫眞畫参照)

北半町にありて、鍛冶芝辻道逸なる人、元和年中に勸請したりと云ふ、土地高く幽閑にして、境内に櫻樹あり、近年有志相謀りて庭を築く等、風景甚だ佳なり

高須遊廓の跡

今は旅籠町櫻の町の東二丁と云ふも、昔は高須と稱する遊廓ありたり彼の名高き遊女地獄太夫の住みし處にして國色艶美の名を轟し才識亦た絶倫なりしかば一休和尚遊行の時之れ

聞をて尋ね寄られ。

きよしより見ておそろしき地獄か那、
の句を示せしに

一 休

いきくる人もおちざらめやは

遊女 地 獄

と答へしかば一休此女眞に三乗四諦に通せりとて、禮をなして去れりと云ふ、今尙遊樓の舊形を存する家屋二三あり。

西本願寺別院

文治年中樅木屋道顯我が居宅を割き當院を建立し、蓮如上人に献す、依て樅木屋御堂とも云ひ。又信証院とも稱す。本尊阿彌陀佛にして、十二代准如上人の作長三尺一寸四分、御足の裏に判形あつて、之れを造ると刻せり。初は聖德太子作の本尊なりしが、今は東京築地の御堂へ移し安置せり本堂及書院、對面所等莊嚴美麗なり、鶴の畫は古法眼の筆、黒書院は探幽の畫なり、其外の室は多く、竹隱齋敬甫の筆にして、就中鮎の畫は筆力特に眞妙に迫り、畫工の常に規範とする處なり

寶珠院 (土佐藩士墓寫眞畫参照)

此處には舊土佐藩士十一人の墓あり是れ明治初年、舊土佐藩が堺市警衛に任せし時、湊の

海濱に於て佛國人と衝突し、遂に彼れ十一名を殺害したる罪に依て箕浦元章、以下十名屠腹を命せられ、遺体を此寺に葬れり初め碑は寺の裏手に見る影もなく、並びありしが、今は寺は廢壞に屬し、碑石正面となれり、左れど近來は吊訪の人増加し香華を供し守番又清掃に任せり東の角を南へ、材木町東三丁に蘇鐵を以て著名なる、

妙國寺 (蘇鐵寫眞畫參照)

日蓮宗にして廣普山と號す。日光僧正永祿中の開基なり、地面は三好長慶の叔父實休の寄附、諸堂は油屋常言の建立に係る。本堂には日蓮上人、及び日光上人の像を案す實休塔は本堂の前にあり。實休の舍弟、安宅木冬康當寺に於て、連歌を催し、「古沼の淺きかたより野となりて」と云ふ前句の出でしとき兄實休の戦死を聞き「すゝきに交る芦の一もど」と附句をなし、直に吊ひ合戦に出でしと云ふ、名高き話あり且つ又徳川家康穴山梅雪を伴ひ、形勝遊覽の砌り、旅館を當寺にトせしが、信長父子明智光秀の爲めに殺害せられしを聞き、此寺より直に、大和伊勢を越へ、遠州に歸れりと云ふ、尙前に記せし、土佐藩士は實に此寺の客室にて装束し佛殿前の廣場に幕を張り其處にて節を遂げたるなり。而して殊とに著名なる蘇鐵は方丈の庭中にありて、幹の高さ三間餘、大枝二十三本、小枝七十八本、四方十尺に達し、三百餘年を経て、連綿霜雪に堪へ、翠巒點々滴る如く蒼色四時變らず實

に靈樹と云ふべきなり、遠近の旅客此地に來る者は、先づ之れを觀て賞歎せざるなし且庭前の泉石花樹の配置古雅風致あり、蘇鐵の下側に、地藏を刻める六角形石燈籠は、利休の好みたる者とす當寺には有名なる什寶多し、

殿馬場 (堺市役所寫眞畫參照)

柳樹を兩側に植へし廣濶なる道路にして徳川幕府時代に於ける奉行所屋敷の舊跡なり、現今左右に和洋館の巍々たるを見るべし其重なる者は府立堺高等女學校、堺區裁判所、堺市役所、稅務署、殿馬場尋常小學校、市立堺女子手藝學校等とす

東本願寺別院

本尊阿彌陀佛は、聖徳太子の作、堂宇壯麗にして樓門の彫刻殊とに雄妙なり是は三十三年頃の新築落成に係り、元どの殿堂は、二十年前寶物と共に鳥有に歸したるなり親鸞上人親筆の十字の名號等を寶物とす、門前四丁西に戻れば菅原天神の北門に至る。

菅原神社 (寫眞畫參照)

祭神は菅原道實公にして聖廟の神像は筑紫左遷の時、自から神影を彫刻せられし者にて、天下七天神の一とす。而して此神像は延喜中當市海濱に漂着せしを、人民一祠を設け奉祠

せしが、長徳二年正月奇瑞を顯して、廟詞自から開いて神体飛行し、當社の紅梅の樹頭に留まりしより此に神殿を造營せしありと云ひ、一説に當社は元と塩穴郷湊村にありて、塩穴天神と稱し、中古今の所に勧請せしにて、塩穴は菅家の祖天忍穂耳命已來の舊領なれば即ち天穂日命の神廟に菅公を合祠せし者なりともいへり、現今の本殿明暦三年北の庄即ち北部の産神として造營せしものにて先年本殿及び諸宇に大修繕を加へ、盛大なる一千年祭を舉行せり朱の樓門は巍峨として峙ち社前左右に白太夫社紅梅社神樂殿あり左の空地には小西行長朝鮮より持歸りしと俗傳する老松あり右方には壇を築き両宮遙拜所に當て、聚樂館、連歌所等完備す、琴平神社の後ろに屏を築き其内に大神向影と云ふ有名の老梅あり。建築頗る壯麗にして、本殿の如きは、金箔燦然として耀き。庭園優美境内廣ふして梅樹多し。蓋し泉州一の天神社とす神祭は七月十五日を夏祭りとし九月十五日を秋祭と唱へ、此日は渡御あり、兩三年前より往昔行ひし船渡御を再興せり、市中は勿論近郷よりも群集し、雑踏を極む例祭は毎月二十五日なり夫れより一丁南大小路に出で熊の町東五丁に

熊野小學校

明治十年明治天皇堺市へ行幸の際、親臨を辱ふし生徒の授業を天覽あらせらる今尙玉座の迹を保存す、前面庭園に花岡石の明治頌德碑屹然樹立せり是より東郊外に出れば高野鐵道

堺東驛停車場あり

驛前を北へ行き、右に登れば石の鳥居あり、之れ名高き、

方違神社 (寫眞畫參照)

此地一帶攝河泉の境に當るを以て、三國が丘と云ふ側邊の石に刻してあるは萬葉集に載れる歌なり。神功皇后三韓征討の時、天神地祇三千七百五十餘座を勸請し、凱旋の後葦の葉に埴を包み、方違の穝をなし今の住吉に鎮座せり、後世此地に神靈を留め、方違神社を祭れり。祭神は神功皇后とす、社殿壯嚴、境域高丘なるにぞ、市全景は一瞬に集まり茅海半面を眼下に眺むる等、風光絶佳なり、世人家土藏を建て、或ひは住居を轉ずる時は此社に參詣して除厄の神符と葦の粽を受くるを例とし、日々絶ゆることなし、就中節分は參詣最も多く住吉吾彦子に續いて、群集雜沓す境内櫻樹多く春秋野遊の客最も賑はし夫れより東一丁

牛頭天王の森

俗に東原社と云ふ、素盞鳴尊、王仁、兔道稚郎子命、の三神を祭る境域幽閑にして、春陽變隸の頃は、青色岡阜に漲り、櫻梅時を得顔に社頭を飾り、野花之れを色どり、堺第一觀花の場處とす、故に春時遊人多く、亦頗る觀月の地に適す。夫れより西南の方一丁に

百舌耳原北陵

即、反正天皇の御陵あり、周圍三百五十餘間、南方に參拜所あり、丘上古松老楓枝を交へ繞らすに池水を以てし、無數の鳧鴨、悠々自如として浮泳するの狀、風韻颯爽景光清雅なり外圍は椎松櫻樹相點接して四邊の眺望亦極めて佳なり。其南側に、ある禪寺を

天王山紅谷庵

往昔堺市の豪商紅谷某の別荘なりしが。牡丹花宵柏、晩年此處に住居し、大永七年死没す遺骸を南宗寺に葬り、後宵柏の持佛を安置す門人下田谷家柳の書きし宵柏の像あり近年有志者堂宇を修補し今日の觀となれり此庵元と閑靜隔塵の場所なりしも今は中學校と對峙し啞喞の聲を聞く。之れより南方十四五丁青々たる波狀の丘陵崛起するを見るべし、

大仙陵 (寫眞書參照)

則ち仁徳天皇の御陵なり。南方に參拜所あり、眺域頗る廣く外圍の堤千二百八十間餘、中央二峰ありて、富士形に起伏し、陵上松樹鬱蒼たり周池は二重に繞りて、汪泚として湖の如く、金波洋々蒼々たる綠翠と映じ清雅幽邃一見肅然として感極まり、敬虔の念うたゞ禁じ難し、蓋し此地を百舌耳原と稱するは、帝が六十七年冬十月、河内國石津原に行幸あり、

り、陵地を定め給ふ時、鹿野中より馳せ來りて忽ち仆る、人々之れを怪み瘻を探るに、百舌鳥耳の中より飛び去る、故に其所を百舌鳥耳原と號くと是れ日本記に見ゆ夫れより西南五丁にして、

万代八幡宮 (寫眞書參照)

古へは此邊を土師の郷と稱し、近在に野見宿禰の居村なりし土師村あり。祭神は應神天皇住吉、春日、神功皇后、を併祠す、欽明天皇の創建にして、今は當村生産神として社名世に著はる本殿、繪馬堂、御供所、等齊然たり、前面に低地あり池を穿ち蓮花を植へ中洲に辨財天を祭る、境内清麗、境域廣大、喬木森々として日光を遮り、夏尙ほ涼冷の氣を卓め幾階の石段は苔に蒸され神殿の尊嚴と共に古色蒼然たり祭禮は、舊曆八月十五日夜にして恰も、明月の節あるを以て、日暮老幼蟻集し道路多くの燈を點じ、又篝を焚き、露店壘々實に熱鬧を極む月輪皎々中天に懸れば、觀月の莖を張る等歡聲喧々而して夜を徹するに至る此れより凡十丁

履中天皇陵 (寫眞書參照)

是を百舌鳥耳原南の陵と云ふ周地の堤八百八十三間、山の根廻り六百三十六間、南峯高さ十四間、北峯高さ十六間、頂上に數株の老樹あり、俗に之れを摺鉢山と云ふ歩を轉じて再

び西に向へば市の南端大道筋に架せる小林寺橋に至る

乳守の遊廓

南旅籠町にあり名高き遊廓なり近時其盛を龍神町に歴せらるゝも紅燈青樓軒を並べ昔時全盛の餘波今尙絃歌の聲を絶たず、此廓の東に。

臨江庵

境内の空地總て萩を栽ゆ俗に萩の寺と云ふ花時遊覧の客多く夜は灯を点す又境内乳守明神を祭る、乳無き婦人は參詣して利益著し俗に乳女郎と云ふなり庵を出で北へ行當りを右へ廻るべし此處は南旅籠町東三丁にして堺市第一の古刹あり

龍興山南宗寺 (寫真畫參照)

宗門は禪宗、京都紫野大徳寺派に屬す開基は大林和尚で弘治二年三好長慶の建立なりしが元正元和の頃兵燹に罹り、中興の祖澤庵和尚之を再建す、當時侯伯戮力之を助け徳川氏よりも税田を與へらる、寺域六千五百坪あり。佛殿を大雄寶殿と稱し額は清嚴和尚の筆、本尊中央釋伽佛、左文珠、右普賢、天井は狩野信政八方白眼の龍を描けり。照堂の額は曹溪と書し澤庵和尚の筆、其左檀は將軍家自國初代々の位牌を安置し、中央は普通國師、右檀

は澤庵和尚なり、鐘樓の額は坐雲亭とあり天室和尚の筆。方丈の額は東波なりと云ひしが明治初年混雜の際紛失せり。此處に中央釋迦佛、左右、厨子入りの唐金の毘沙門に弘法作辨天が安せり、この厨子名品にして、釋迦佛と共に國寶に登録せらる山門には甘露門と額し玉室和尚の筆。客殿の額は全筆にして、襖は狩野秀信の筆惣門の額は龍興山と書し、江雪和尚の筆、寺内に牡丹花宵柏の塔、一閑齋紹歐の塔あり、塔に耳を當つれば湯の沸る音聞ゆと云ふ、千の利休の塔、趙陶齋の塔、其他有名なる人々の墓夥多あり庭前は古田織部の好み、正面の石橋は唐土潮信橋を形とりて、石を安排し流を造れり作頗る功緻精妙を弄せるも今や、三百餘年の星霜と共に大なる變化を來し、樹木老大、深山遠林の趣をかし氣韻、雄偉遠く塵世を隔て天界を視るの觀あり。亦北隅に實相庵と云ひ利休の茶室あり。此は元と鹽穴寺に在りしを明治十一年此寺に博覽會を開設のとき有志が爰に移したるもの庭前に袈裟形の手水鉢利休好み六地藏形石燈籠あり、妙國寺にも全式の者あるは其部に記きたるが此庭の者殊に著名なり而して室の造作庭園の景光數奇高雅にして古色蕭然、忽ち禪味を嘗め風流を解するに足り、多少趣味を有する者は、所謂羽化登仙の想ひなすべし元和九年徳川二代台徳、三代大猷、の兩公當山成らせられ坐雲亭に昇り遠く西南の海色に連なる紀の海、阿波淡路の島山、北須磨、明石の佳景を眺望せられたる事あるも今は樹木の枝

葉に阻たれり又その南隅に東照宮の祠あり又無名の墓と云ふあり墓は照堂又開山堂なる殿堂の床下に在りて其裏手へ廻れば老杉空を摩し朽葉地を掩ふの處、俯して之を諦視せば、暗黒の中に石塔の樹てる認むべし是れ徳川家康公が大阪と對陣の時、眞田幸村の奇計に陥り、即ち平野の燒討にもろくも敗れ取り塚を指して逃げ來る途中、敵の爲めに襲撃され後藤が一槍の元に重傷を負ひ、遂に落命し此處に竊かに葬りしなりと云ふ左れと正史は嚴然と、其后長く家康公の存在を記載せるを以て、吾人は敢て之を信せずと雖ども無名の墓として有名なるが故に、此説を併せて案内し置かんとす。此境内の東側に

海會寺

禪宗東福寺に屬し、開基は廣知國師正暦元年の創立なり元と開口神社正門前にありしが元和の兵火に罹り、此處に移されたり金龍水なる名高き井ありし井に付ては其所在地に於て記述せん。南宗寺の門を出て東一丁許りの所に、

大安寺

是又禪宗東福寺派に屬す開基は徳秀和尚應永元年の草創にして、殿堂に聖觀音を安置す弘法大師の作と傳ふ、抑も當寺は堺市の人納屋助左衛門の居宅にして、其書院に七寶を鏤め珍花を樹へ善美を盡し榮華に耽りしが、松永久秀或る時入り來り其缺るなき結構を見、物

滿れば缺く、我れ卿が今日の境遇を見て必ず不測の災の生ずるを恐る、故に我れ爲めに之れを缺くべしとて、直ちに刃を抜て柱を斫りしが、其痕今に存せり。其後助左衛門禪法に歸依し、書院を擧て當寺に寄附し、佛殿とせり其上檀の間の壁は西湖の圖にして狩野法眼元信の筆。佛間及次の室は、松、藤、猿猴、梅、鶴、草花等皆を狩野永徳の筆とす就中松は永徳東國へ趣く前書きしが、發足の後面白き松の枝振を見、再び尾州鴨海より引き返し枝を書き添へける故、後世枝添の松と稱し有名なり佛殿の庭に利休の好みたる虹の手水鉢方丈の庭には利休が時雨の名を呼びし井戸あり。當寺は小寺なるも珍寶名具に富めり尙ほ納屋助左衛門は呂宋助左衛門とも呼び、遠く南洋呂宋に涉り久しく彼地に止まり、船舶の完全からざる時代に於て、萬里の風濤を侵し、海外貿易を試み巨万の富豪を致したる偉人なり

少林寺

少林寺町東三丁にあり禪宗紫野大徳寺の末寺とす、開基は桃源和尚元徳年中檀家小林氏の建立、故に小林寺と云ふ、古へは兆域頗る廣く今の寺地町少林寺町一帶は皆此寺の境内なりしも其后漸時衰頽を來し今は其町名に昔を忍ぶのみとなれり寺中に通心靈詞とて稻荷明神を祭る俗に釣狐社と云ふ塔中に住せし白藏主と云へる僧常に稻荷を信仰し三疋の白狐を

愛養し終に祠りたりと言傳ふ現今狂言で演ずる釣狐は、此靈詞に因由せるものにて、此狂言をなす時は、當祠後手の小篠を伐て杖とする故實ある由。今に此稻荷社は參詣人多し此一丁北を少し東に行けば、

旭蓮社

宗門は浄土宗、盧山派の一本寺甘露山大阿彌陀經寺とも號す光明帝、後村上帝、南北兩朝の叙信厚く、大伽藍殿門三十八宇、塔頭僧坊三十餘舍、浄土宗新進の一派として、隆昌を極め其雄大壯麗、堺市屈指の古刹なりしが、維新後廢頽を極め、現今稍々修覆する處となり。本堂は流石に雄麗にして、本尊は丈六の阿彌陀佛、又毘沙門堂には長さ八寸弘法大師作の毘沙門を安置せり境内に忠魂碑あり戰病死者の靈を祀れり

祥雲寺

俗に松の寺と云ふ。禪宗紫野大德寺派に屬し、龍谷と號す。開基は澤庵和尚、寛永二年の建立、本尊は聖觀音、左達摩大師、右澤庵和尚、照堂方丈小方丈、庫裡、鐘樓、玄關等完備し、總ての建築古雅堅牢佛殿莊麗なり額は和漢諸名家の筆にして一見の價あり、方丈の庭に五葉の松あり、枝葉左右に流れて十間、高さ一丈九尺、翠色四時蒼々として其形涼笠五蓋を風流に重ねたる如く頗る奇觀なりしに惜ひべし一昨年白蟻の爲め枯死せり元と豐公

鉢植の松を移植すと云ふ南庭に蘇鐵あり朝鮮國より傳來すと庭園亦優美温雅なり方丈の襖は狩野秀信山水七賢花鳥等頗る美事なり其他當寺に種々の寶物多し、門を出で南の辻を西へ行かば般賑なる處に出づ

宿院

元名越の岡の舊蹟なり

みか月のけふのさかひにみそきして

ちとせをのふる神の宮人

家隆

と詠まれし宮居あり老松三三三座の祠を擁す毎年八月一日荒魂の御辰には、住吉の神輿渡御あり、禊祀を修めらる此式尤も古へより繼續されり大鳥神社も前一日こゝに神幸あり、兩日は堺市一般幕を張り高張提灯を立て、其賑ひ世上に名高く近在は勿論遠方よりも、參詣人市内に充滿し、雑踏を極む元來此邊一圓は市中最も熱鬧の地にして、境内近傍には青物市場、勸商場、寄席、劇場、見せ物小屋、露店等あり日夜行人繹絡織るが如し

飯匙の池

穴池にて、地神四代、彦火火出見尊、龍宮より得られし干珠をこゝに納むと傳ふ、當所古跡の一つなり宿院より半町西に大鳥居あり

山の口筋

宿院前南北の通にして、商賈雜店軒を列らね、堺市第一の繁華を占め日夜賑はし。此處を一丁北へ行けば開口神社にして門前に

海會寺井

金龍井とも稱す、前に記したる如く此處は元と海會寺の境内なりしが、其寺南宗寺に移りしより井のみ此所に存す昔乾峰和尚龍神の告げに由りて此井を穿つ果して名泉迸出すと傳へり、其味清美なるは泉州第一と稱す

開口神社 (寫眞書参照)

俗に大寺と呼びなせり、當社は式内にて又三村明神と號す。舊と鹽穴郷の内開口村木戸村原村の間にありしを以てなり、祭神は伊弉諾尊の御子事勝食勝國長狹なり、後生國魂神、素盞鳴尊をも併祭す古は住吉外宮と稱し、朝廷より二十年毎に住吉と共に改造せられたり社地頗る廣濶祠宇も亦壯麗なり殊に繪馬堂三重の塔は建造最も功妙を極む、舊は兩部で密乘山念佛寺と云ふ眞言の靈刹ありし故にて、大寺の名は是に因す此塔は紀念なり、境内露店あり茶店軒を連らね參詣人常に絶えず又櫻牡丹等多く植ゆるを以て花時は錦を綾どり、夜は燈火篝を設くる等見物群集し一層の賑ひを添ゆ尙舊四月八日境内に植木市あり其雜沓

名狀すべからず祭典は九月十二、十三日を大祭とす此日渡御あり

堺市の重要物産

重要製産物としては清酒、醤油、綿絲、肥料、及物、煉瓦、線香、足袋、緞通、玉簾、油等頗る高評を博せり而して清酒の如き市内の造石高は毎年六七萬石に過ぎざるも醸造家は攝州灘朝鮮地方に醸造倉庫を有し其地方に於て醸造する石數又た多し其他綿絲の産額壹千萬圓以上緞通煉瓦醬油足袋及物線香製油等何れも三十萬圓以上五十萬圓の産額を有し居れり就中堺緞通の如き名聲遠く海外に轟き緞通王の稱ありし藤本莊太郎氏時代には三百萬圓の製産額ありしも近年萎靡振はず漸く三四十萬圓の産額を持續し居るに過ぎざるは誠に遺憾なり

重なる工場と銀行

堺市は元來商業の地にあらずして工業地に適す故に各種の工場最も多し就中著名のものを舉ぐれば大日本セルロイド、大阪織物、福島紡績堺工場、南海紡織、日本ウエルベツト、惠比須織物、大日本人造肥料工場、浪速紡織、日本煉瓦、大阪窯業、岸和田紡績分工場、日東物産、堺製綿、和泉製油、關西製油、大阪造酢、其他個人の經營としては河盛又三郎氏の醤油醸造工場を始め宅合名會社(澤龜)、大塚和三郎(金露)、肥塚源次郎(白菊盛)、鳥井三次(春駒)、柴谷合名會社(東洋一)、大塚三郎兵衛(菊泉)、鹿嶋吉平(味淋)、末吉平兵衛(鶴)、益田嘉平

(金乃鳩)氏等の清酒醸造場、梅鉢鐵工場(電車製造)、淺香久平(スロップシヤアル)、淺香長藏(鍋釜度器)、大和川染工場、辻本福松(足袋)、和田源三郎(足袋)、關西カバ製造株式會社、日本足袋製造會社、酒井包義(打刃物)、石割作左衛門(打刃物)氏等の各工場を算し來れば大小二百餘の工場あり

金融機關としては大西銀行、浪速銀行堺支店、兒山銀行、和泉貯金銀行支店、大阪貯蓄銀行支店、河泉銀行支店、寺田銀行支店、五十一銀行支店等あり

上水道の完備

由來堺市の水質は一般に不良ありしが曩の市長大西五一郎氏時代上水道敷設の議起りたるも時恰も日露戰端開かれ中止したるが宮本通義氏市長とあるに及び一部の反對あるに拘らず萬難を排して六十萬圓の市債を起し上水道工事を開始し明治四十三年竣成通水式を舉行せり其當時は給水者僅少にして收支償はざりしが齋藤研一氏市長たるに及び勸誘の結果給水者頓に増加し漸く順調に向ひたるが近時市民一般に水道の必要を認め爲めに衛生状態頗る好良なり

濱寺公園

(寫眞書参照)

高石濱の舊跡にして今尙は高石の名あり濱寺は元享年中三光國師開創し大雄寺と稱し宏壯なる七堂伽藍なりしも僅に其名のみを残して今は公園となれり區域頗る廣大東西十町、南

北廿町餘、一面の眞砂地にして古松多く、西に淡路島、北須磨、明石、一の谷、鐵橋が峰南に紀の海、阿波の鴨門を望むべく風景明媚絶勝の地とす明治の初め某人開拓を企て伐木せしが偶々時の内務卿大久保利通公府縣巡回の際此地を過ぎりその荒廢に屬するを嘆じ名にしをふ高石の濱の濱松も世のあら波は免れざりけり

と、和歌一首を咏せられしが爲め時人大に覺る處あり終に中止し今は大阪府四公園の一となれり其後榭亭茶店増加し旅館酒樓海濱に巍々たり。其重なる者は即ち一力樓、日柄喜、丸三樓、川芳樓、壽命館等にして宏大美麗、料理の塩梅、來客の接待等大濱と伯仲を争ひ増々繁榮を加ふ此地夏日避暑に宜しく又保養に適す晴曉月夜逍遙微吟すべく殊に夕日最も佳なり松樹青々として白沙に連なり老幹躍るが如く、舞ふが如き。奇趣妙姿に至りては、其玲瓏たる風光と共に松を以て著名なる舞子の濱に勝るも敢て劣らざる也こゝより東十二町官幣大社大鳥神社あり

大鳥神社

(寫眞書参照)

日本武尊を祭る尊東征の歸途伊勢能褒野に崩じ玉ひ入尋の白鳥と化し飛去り玉ひしが此地乃ち白鳥の止まる處にして大鳥神社の名の起る處也其周圍の森を千草の森と云ふ境内甚だ濶大にして總坪殆んど一萬三千坪に及び本殿、祝詞殿、幣殿、拜殿、神饌所等總て備はり

森林鬱茂し神殿極めて壯嚴自から神威の尊きを感ず。神園として六百餘坪の梅林あり早春杖を曳く人多く櫻樹も亦多し且池築山を設け風趣甚だ幽澗あり、境内攝社は大島美波比神社、天照皇大神を祭る境外攝社として濱寺、高石、八里莊村、の三所にあり。先年炎上し罹り本殿其他鳥有に歸したるも直に宮内省より再建せられたり、祭神は妃ごす濱寺に行宮あり、花摘祭には神幸あり頗る賑はし祭神の重なるは官祭八月十三日花摘祭四月十三十四日にして十三日濱寺へ神幸祓戸祭七月三十一日此日堺頓宮へ神幸月次祭は毎月十三日なり是れより東北二十丁にして有名なる

一 乘 山 家 原 寺

禪宗にして、開基は行基菩薩とす。本尊は文珠佛、左釋迦、右普賢、共に行基の作とす本尊の額に一寸八分の黄金佛納めあり是は天竺の波羅門尊者天平十八年南都大寺建立の時來朝し、是れを納めしなりと傳ふこゝは大僧正行基出誕の家地なるが故に家原寺と稱す境内甚だ廣く、古へは尙ほ廣大なりしことは、現今民家を隔て、建造物あるを以て知るべく現時存在せるは本堂の外、不動堂、藥師堂、鐘樓、祖師堂、誕生樹、放生池、辨財天聖天尊の社、善光寺塚、三反田、白龍淵、赤龍淵、經塚等の建造物及名所にして本堂の東西南北に散在せり寺内甚だ閑靜にして諸人の信仰厚く、優に行基誕生地の面目を保ち、其建築は

古色蒼然趣味津々たり法會のことに殷しきは、一月十五日左儀長あり二月節分の法會殊に舊三月廿一日の御影供には恰も盛春の期なれば近郷の男女行厨を携へ野遊を兼ねて參詣するもの群集す

住 吉

は、南海、阪堺、高野三電鐵の最近停車場の處殆んど町續きなり故に世俗多く堺の住吉と呼べり此地は古來縁故深く而して堺市並松町も住吉郡安立町も全しく霞松原の内なりしなり

難 波 屋 の 笠 松

安立町一丁目難波屋の庭前にある奇代の松にして能く人口に膾炙し、長唄等にも歌はれり古木は凋落し今は新樹之れに交れりこゝの北端に茶店あり其形のみを存す是を、

小 町 茶 屋

といふ昔此邊土手の上に席を設け、長柄杓にて茶を往來の人に薦め店女夫を持たぬより、時人之を小町茶屋と呼做せしなり夫より、

住 吉 神 社 (寫眞畫參照)

境内に入れば石燈籠の多き數ふべからず、中に高大二丈餘のものあり又金燈籠も數多く境内總て奉納の燈籠を以て満たさる、社は官幣大社にして攝津一の宮とす祭神は第一神殿に

底筒男命、第二神殿中筒男命、第三神殿表筒男命、第四神殿神功皇后なり抑も此住吉三所の太神は神代の昔海底より現はれ玉ひし神なるが神功皇后三韓征討の時再び海底より出現あり皇軍の魁をし玉ひしより皇后其功德を賞せられ歸朝の砌り築紫に奉祠せられしが後太神の詫宣により此住吉の津に鎮坐し玉ふ其後神功皇后を併祠し四社の神を崇め奉れり而して此處に鎮坐なりしは皇后攝政十一年辛卯四月二十三日にて、實に一千六百有餘年前とす宮居の体裁は所謂八陣の法に象どり、三社の進むは魚鱗の備へ一社の開くは鶴翼の圖を顯はし世に住吉造りといふ。境内の廣さ東西九丁、南北五丁、四方鳥居の内東西百九間餘南北百八十間餘攝社末社は應神天皇、武甕槌神、若宮八幡宮、其他夥多あり又舊跡沓石、后土木、誕生石、反橋、神木橋、楠大木、便宜水、長岐橋、鶴橋、獨梁橋、龍の橋、玉出櫻あり附近には奥の天神五大力おもと社等其他舊跡尙多し社宇壯麗赫々として松樹の青々と相映じ風景閑雅眺望絶佳なり神事の重なるは卯の葉神事四月堺龍神廓より妓女卯の葉女となり式を行ひ初卯の日御田植の神事六月十四日にして大阪新町廓の妓女稚子及び早乙女となり式を行ひ參詣の人群集し社頭の賑ひ云はん方なし舊六月十四日には潮湯とて俗に神輿洗と稱する神事あり又大に賑ふ七月三十一日八月一日は南祭と稱し堺宿院に渡御あり繁昌雜沓を極む例祭は毎月卯の日にして就中初卯の賑ひは南祭と伯仲せり反橋を渡り西に向へば

住吉公園

此松原及び高燈籠の邊は古への出見の濱なり高燈籠は反橋と共に其名高し園内極めて廣く松樹蒼々幾千なるを知らず林間又蓮池あり茶店酒樓亦多く散在す時々學生其他運動會あり四時遊覽の人絶えず其賑しき他に比を見ず又關西植物園あり園内珍奇の花奔多く栽へり海邊の風光も又明媚にして西淡播攝の諸山を望み東金剛葛城の名峰を負ふ汐干狩には古來より有名なり

住吉名物

蛤、土人形、麥藁細工、蒸芋、ころ／＼せんべい、住吉踊あり、人口に膾炙す

尙ほ堺市中の町大道に明治天皇の行在所跡あり、有名なる舊家河盛仁平氏の別莊を明治十年行幸の際行在に供せしにて今尙其室を保存せり、現在鈴鹿氏居住せり其他乳の岡石津の連の祖、野見宿禰の墓、鉾塚、顯本寺、長谷寺行接寺等古寺舊跡多きも筆を擲す

大正八年九月

(1)

會覽博各國外內

領受牌賞銀金

油醬豆最



釀造發賣元

生島嘉久次郎

大阪府堺市(川尻停車場前)

電話堺五番

大阪發賣元

生島支店

大阪市西區立賣堀北通二丁目明治橋北詰

電話西三〇四八番

內案所名市堺 (二三)

大正八年十一月十五日印刷
全 年十一月十八日發行

定價壹部 金拾五錢

堺市市之町四四丁十九番地

編輯人 淺岡留吉

堺市市之町四四丁一番地

印刷人 河台繁治郎

(3)



市堺府阪大 舖本

店商郎三源田和

(2)

一洋東酒清



島青・連大・堺・阪大・影御

社 會 名 合 谷 柴

番二三番一三話電・丁二西町間九市堺・店本

春 駒 印

醇 良 清 酒



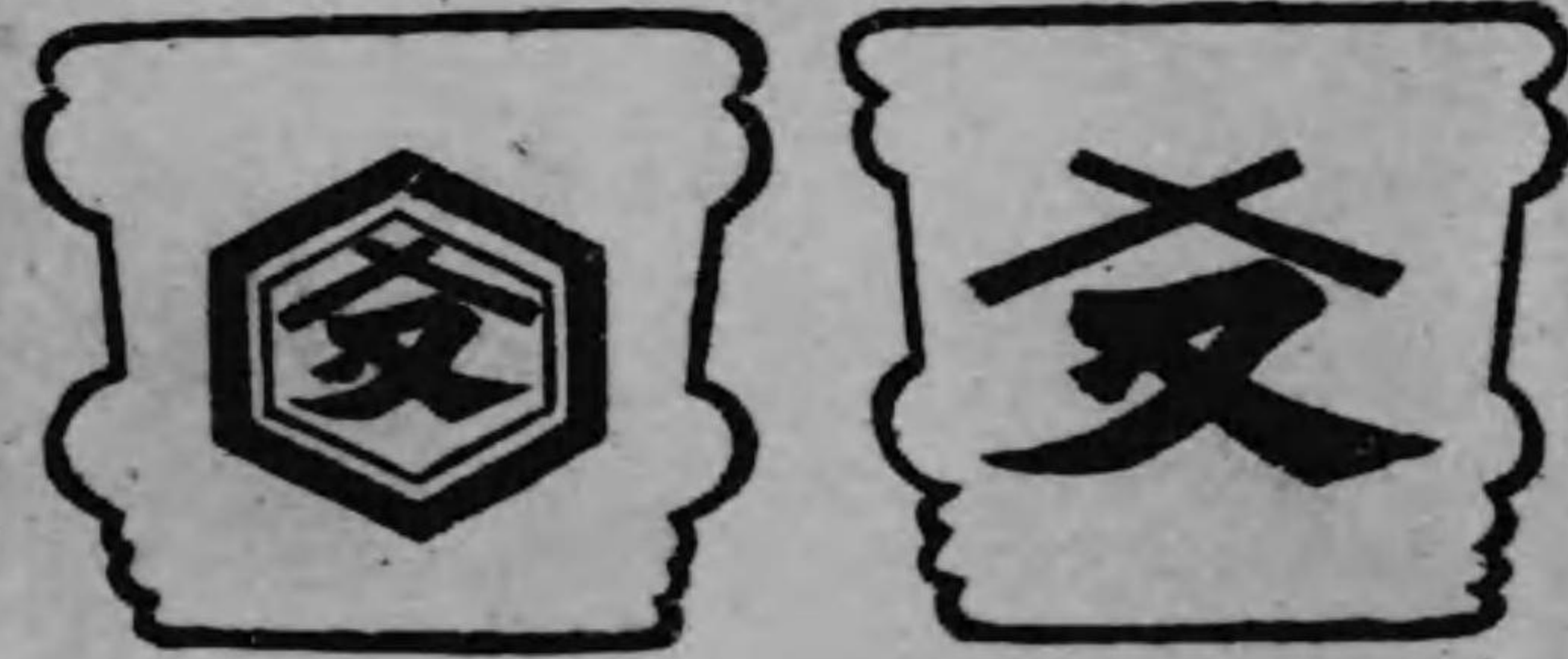
釀造場

灘 御影
分 工 場
電話一六二番

發賣元

堺 市
鳥 井 本 店
電話一長十番
九番

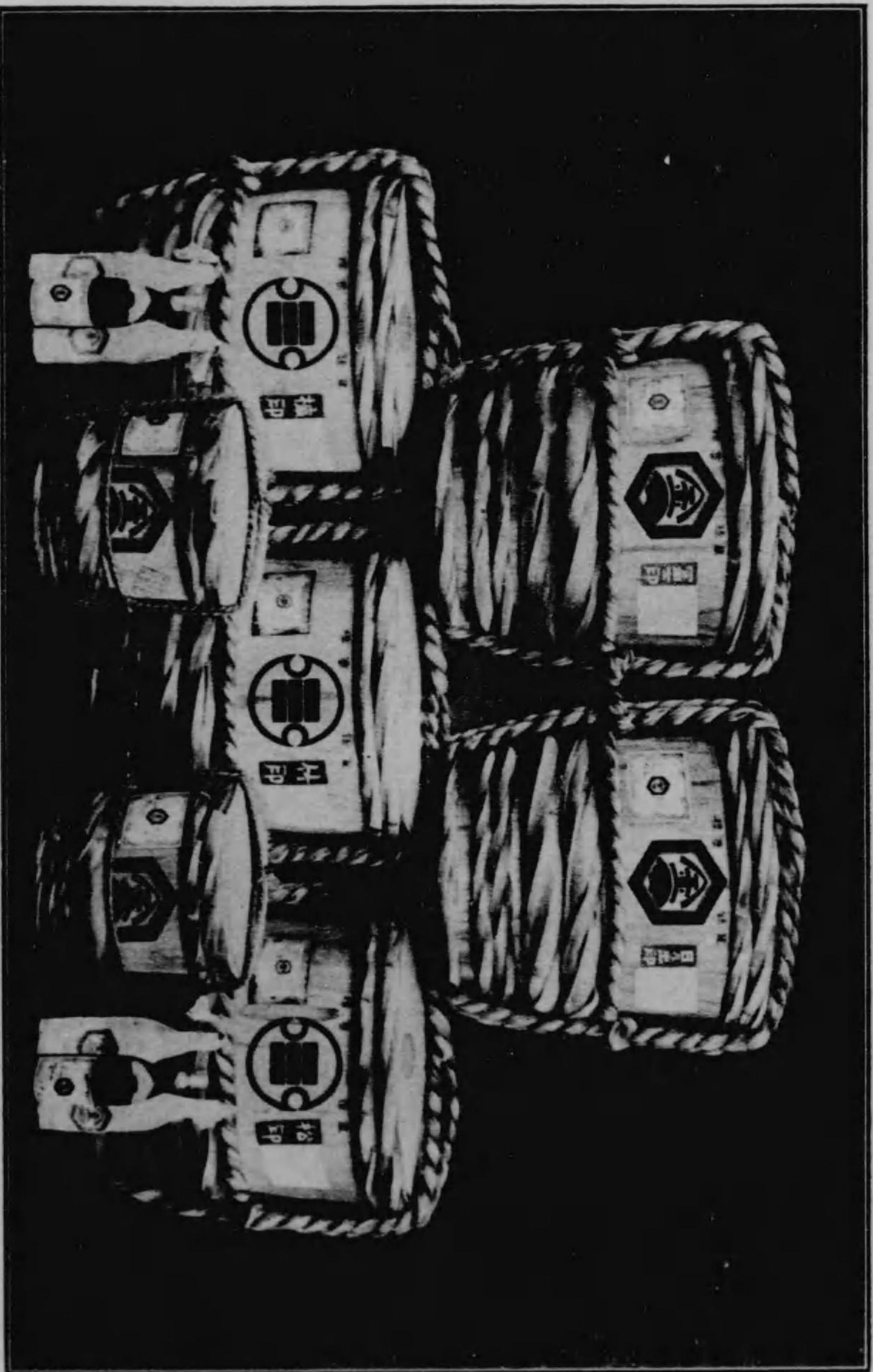
河 又 醬 油



釀造發賣元 大阪府堺市

河 盛 又 三 郎

油醬良醇印之サネカ



番七五八九阪大 番五四三話電 店商雄延谷柴 市堺府阪大 元賣發造廠

優等清酒



釀造發賣元

大阪府堺市
會社名

肥塚商店

市堺府阪大元賣發造釀
 衛兵利野平

酒清良醇

標商錄登

兼露

元造釀
 市堺府阪大
 衛兵郎三塚大

優等清酒

各博覽會評品會賞牌受領



釀造發賣元

堺市寺地町西三丁

益田嘉平

電話二四五番

釀造場 堺市中之町一丁

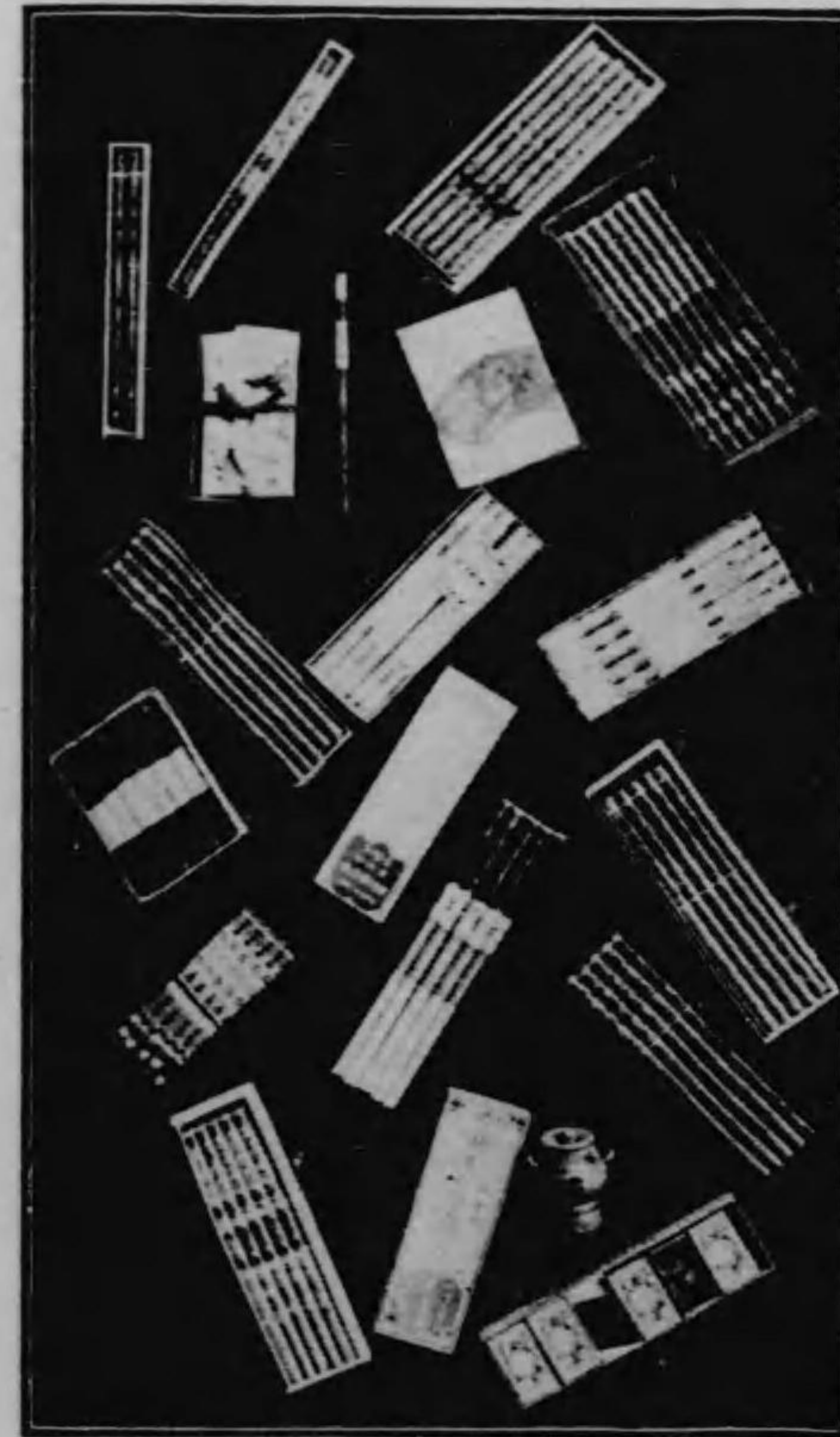
瓶詰部 堺市中之町三丁

登錄商標

薰物線香

敷島
末廣
松葉

製造本舖



內地
輸出

蚊取線香各種

熊野町三十四番地

安正堂

電話六九二番
替四二六番



會進共會覽博外內於
 類受牌賞銀金譽名

標商 錄登

醬 最
 油 豆

チイシホ

元 造 釀

市 場 府 阪 大

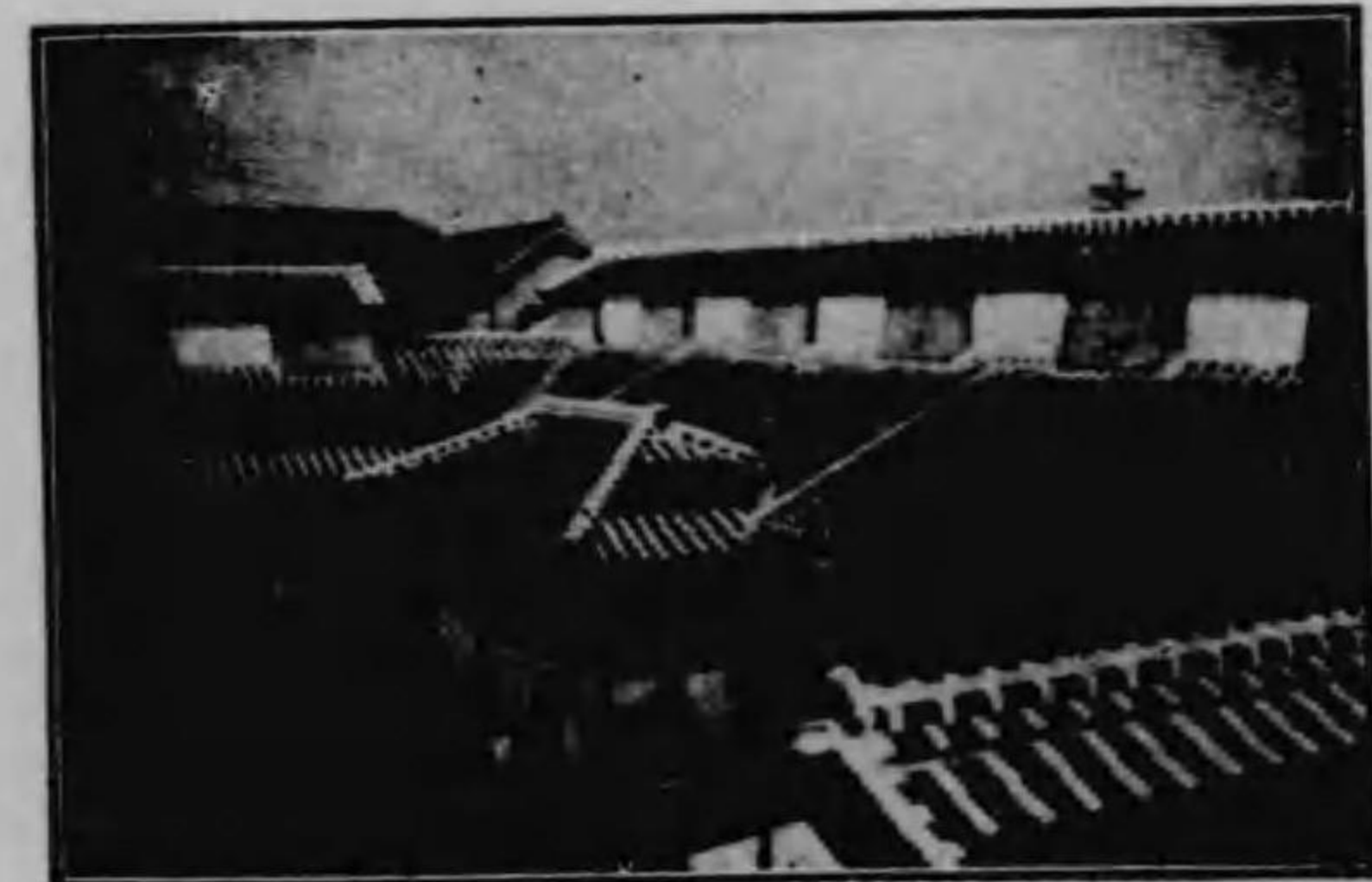
社 會 資 合 油 醬 六 松

番 七 五 七 五 阪 大 座 口 替 振 番 四 五 二 話 電

標商錄登

別珍製 足カバ
袋I

原料各種 及足袋



本社ノ趣意

- 一 品質本意トシテ統一シテ
- 一 約定品不違
- 一 薄利多賣ノ本意ニテ壹萬
- 一 足以下ノ販賣ヲ成サズ

堺市南旅籠町西三丁

關西カバ製造株式會社

電話 八八七番
 振替大阪 四八二三八番

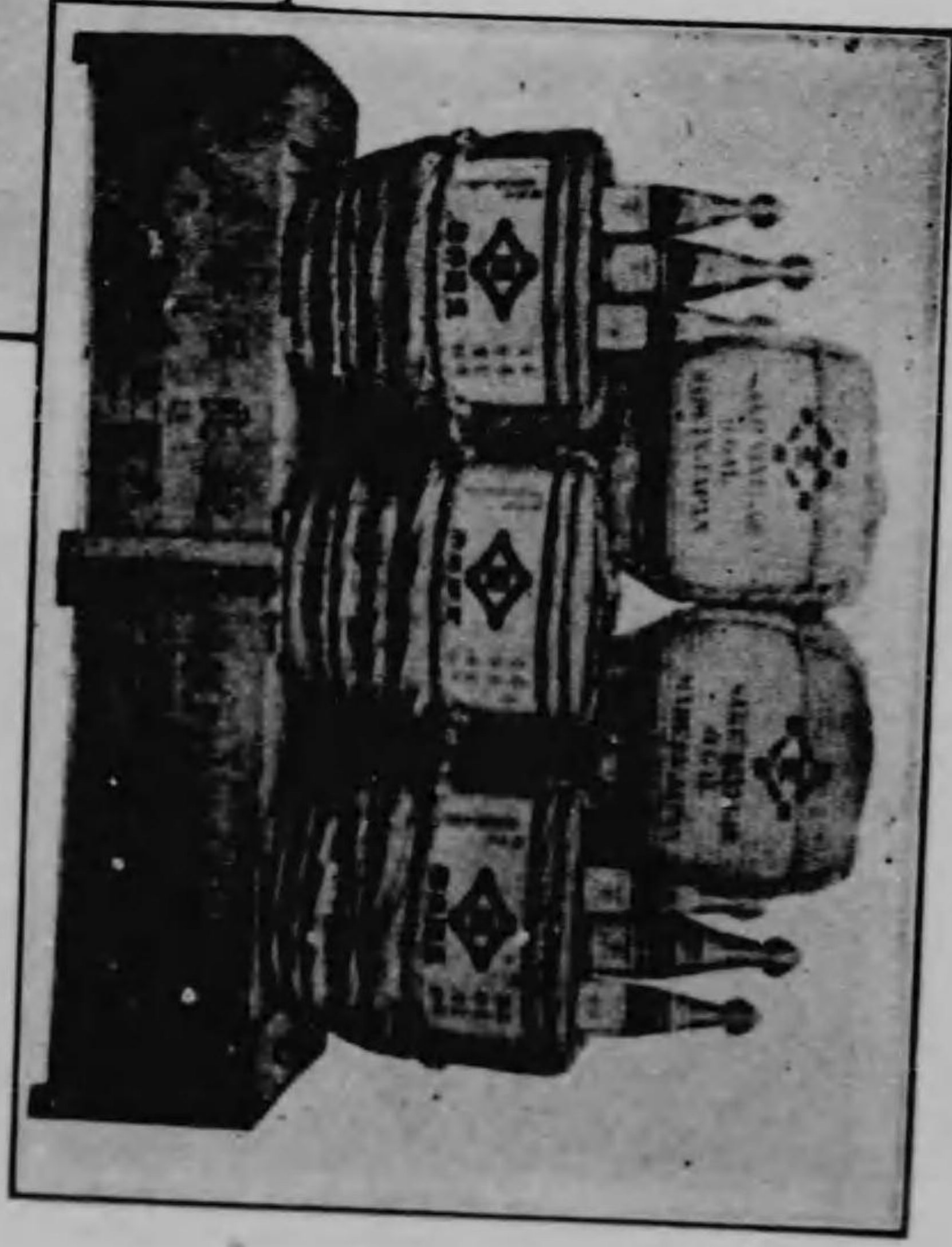




醇良芳香之酒，好飲，
濃厚美味，之調理，適不

本店 堺市宿院町
工場 堺市寺地呀西丁

電話番四番番 振替口座大阪四二貳番



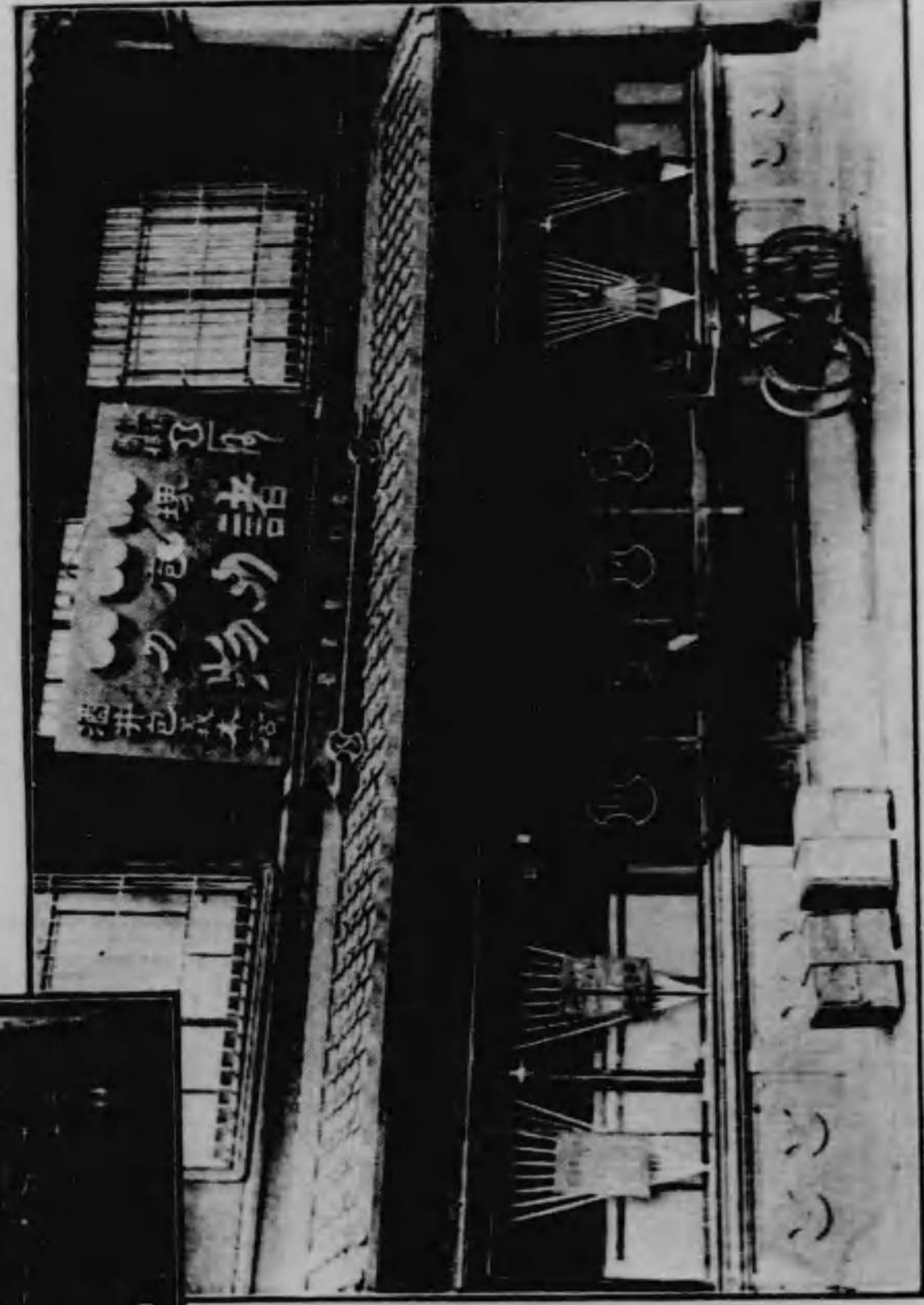
純良清酢
 玉廼井酢
 釀造元
 大阪造酢株式會社

本社
 堺市船屋町四丁
 電話長二十一番
 電話九百二十七番

支店
 大阪
 大阪市西區
 阿波堀通二丁目
 電話新町六〇八番

內宮省賜御上ノ光榮
 內外各博覽會銀牌受領

支店所在地
 大阪府
 京都市
 南區
 馬場
 町
 二丁目
 西目
 神戶市
 多摩
 郡
 開成
 町
 五丁目
 目



元造製造物諸丁庖堺

本店義包井酒

前所留停院(町大堺市)
 番二壹貳話電
 番一三九六阪大番

光明丹

日本元祖



兵衛市鉛

大阪府堺市

電話 (長四九三番) 四九五番

鉛酸鉛
白化鉛丹
各色硝子生地

製造所

工場 堺市市之町東六丁
分工場 (全市外向井町字北ノ庄) 電話堺一四七番

阪堺線材木町(妙國寺前停留場)ヨリ東へ三丁
妙國寺をこつ、七佐十一土墳墓ヨリ東へ半丁



營業品目

式用 丁子油 井打粉
標番録豆 六夕香油
日本藥法 大風子油
品香油 香粧各種

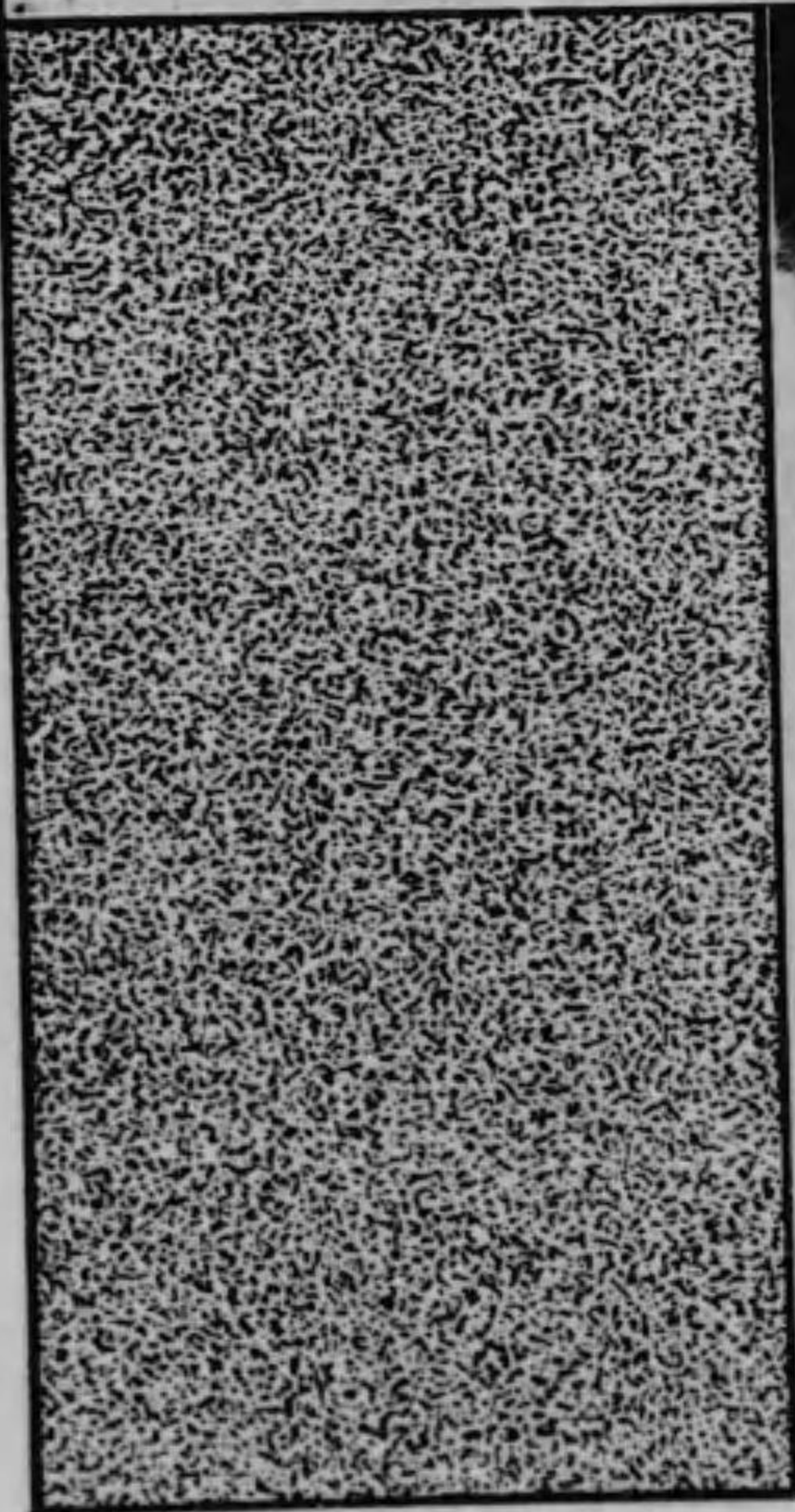
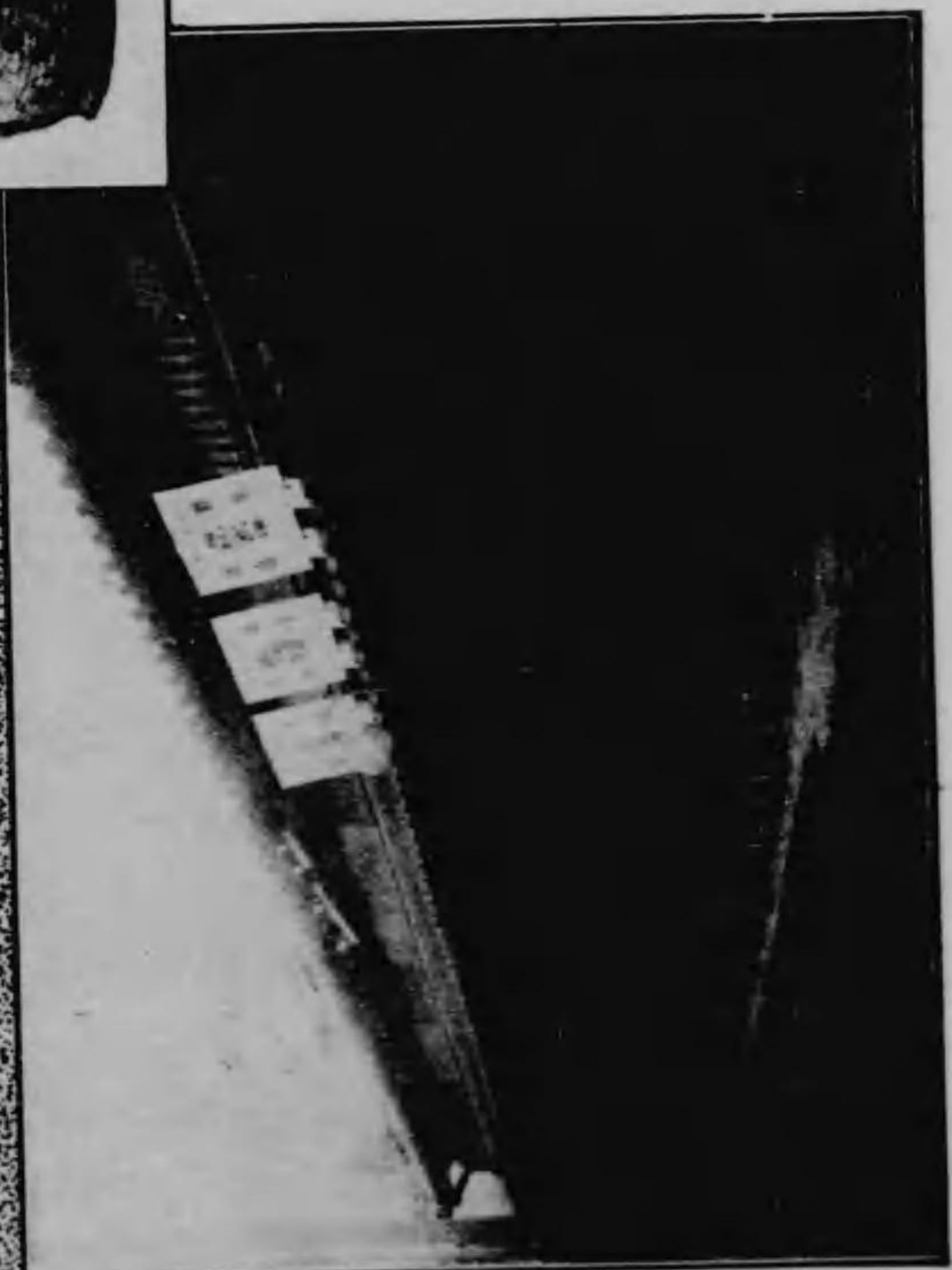
泉州宿屋町 十子油屋 岡村平兵衛 長電二七四番 振替東京二六一一

和泉名所記所載 豊太閣御茶水壺井邸内ニアリ

末吉平兵衛

大 阪 府 堺 市
釀 造 發 賣 元

醇良清酒鶴



大 阪 府 堺 市 綾 之 町

淺 香 本 店

電 話 六三一
三〇五
二二三
番 番 番



鐵 道 礦 山 要 品
ス コ ッ プ シ ョ ン
土 工 用 具 類
農 工 具 金 物 類
製 造 販 賣 輸 入



優等名酒

品質第一

サカワメ

創業

二百年來の家醸。

到る處に愛用を蒙る

内外博覽會に於て五拾

余の金銀賞牌受領。

本店 大阪府堺市

醸造元 宅合名會社

工場 灘、堺 (支店) 小樽、大連、仁川、東京、台北、台南



工場全圖

373
297

終